明治三十六年十二月十五日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百六拾九號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百六拾九號　目次

明治三十七年

◎新年例會廣告

來一月九日（第二土曜日）午後正一時半より晴雨に拘はらず新年相互の禮を兼ね例會を麹町區虎之門内東京女學館に於て相開き新年の事故講演を省き餘興のみ相催し候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候也

當日は本會總裁殿下の御臨場奉仰候也

追而新年會々場は二階なる暖爐の充分なる一室に於て相開申候・時間厲行・衣服御質素の事

一開會　　午後正一時半

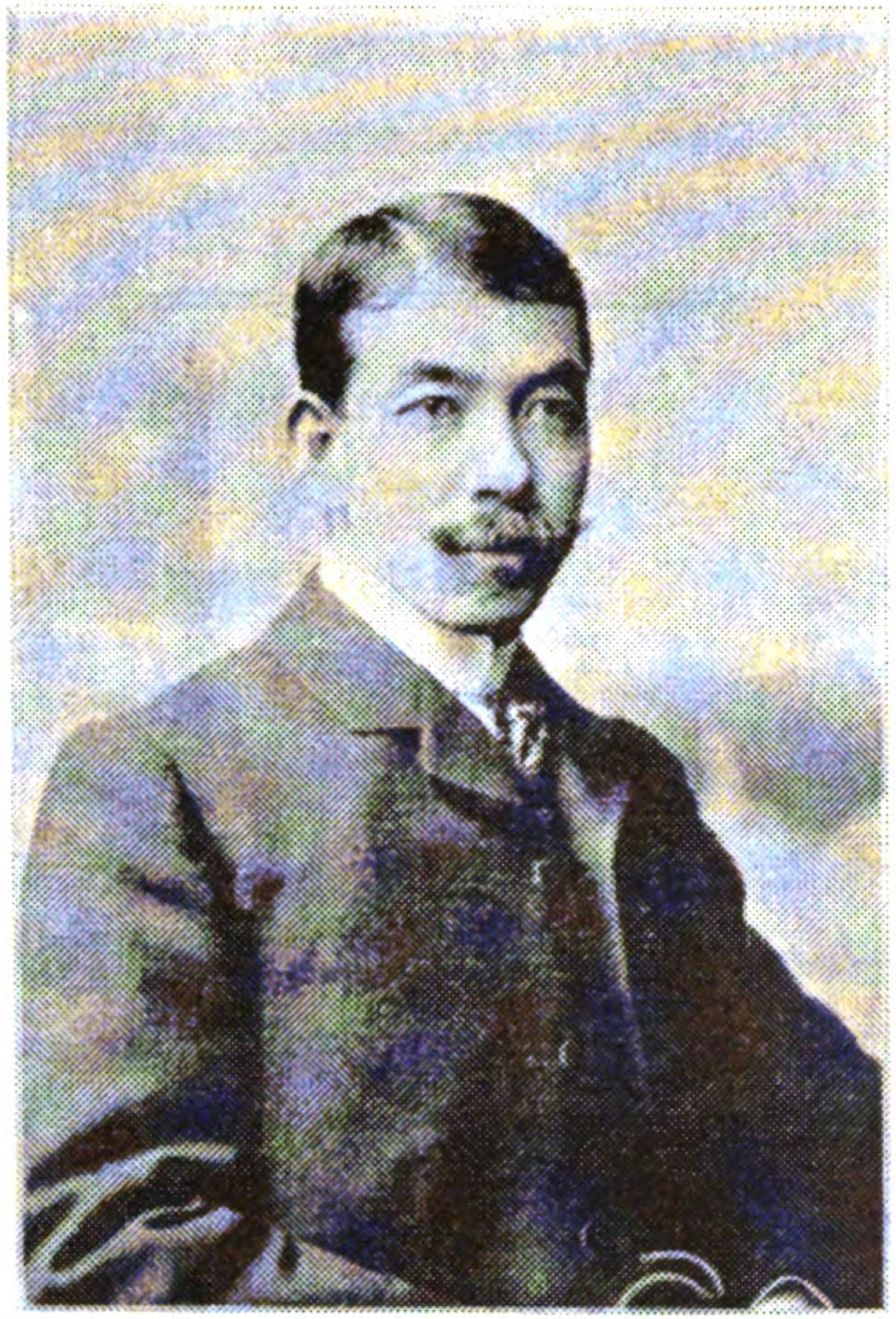
新年の辭

餘興　　講談數齣

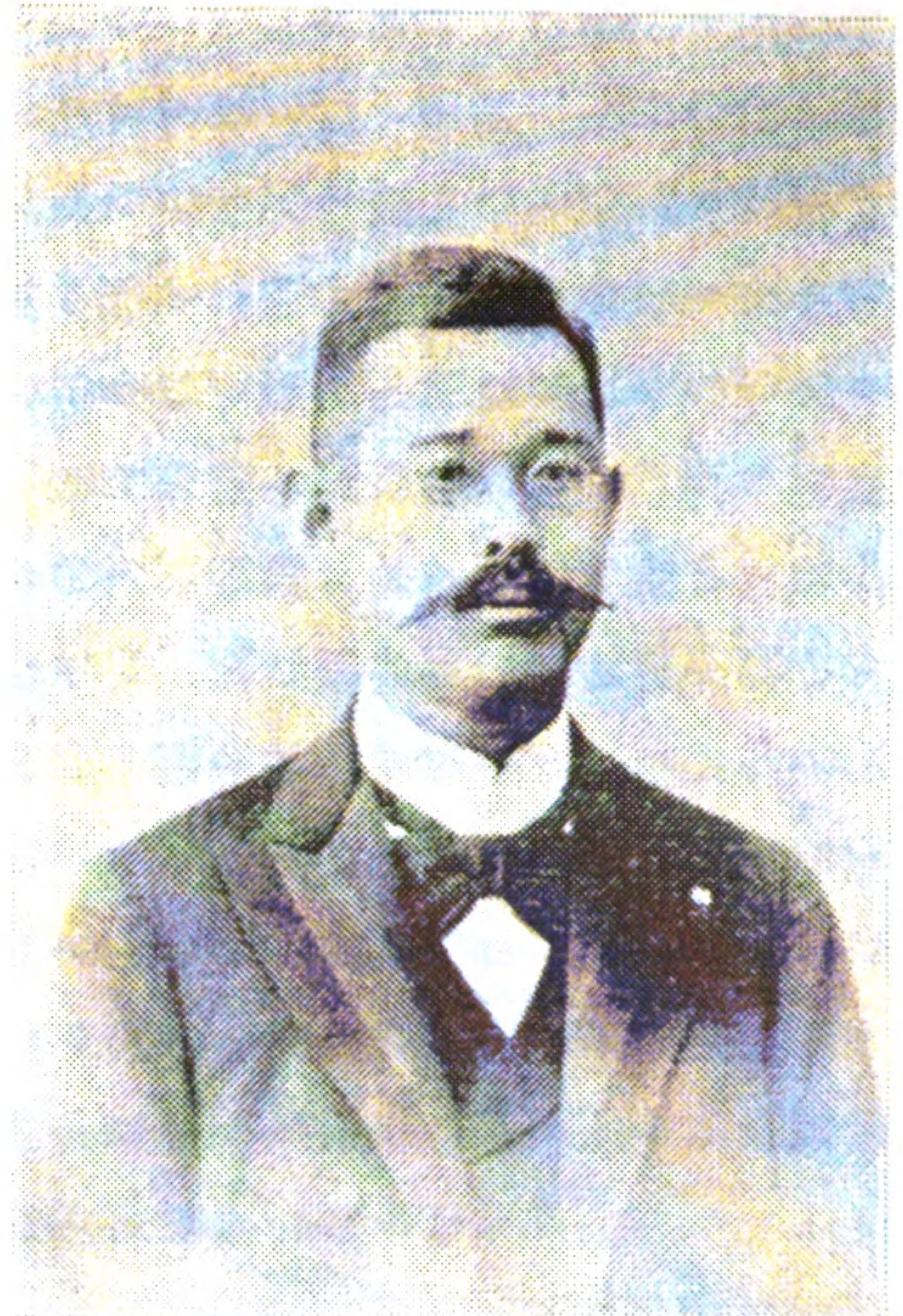
歳末に相成り整理の都合も有之候間會費御未納の御方は至急本會事務所宛御送附被下度候也

明治三十六年十二月

私立大日本婦人衞生會



本會前副會長法學博士梅謙次郎君
（亡故）



本會評議員法學士田村光顯君

演説

家庭看護法（前號の續）

醫學博士　三宅秀君

（本會講演）

ソコデ一服藥を飮みまして何か急に腹が下つて居るとか、或は腹が痛むとか云ふやうな急病人の塲合に藥を醫者から貰つてモウ之を飮んだら差込みが取れさうなものだ、痛みが去りさうなものだと云つて病人の方では切りに急いでモウ「癒りさうなものだ、痛みが輕くなりさうなものだと云ふて居りますが、一向藥の効がなく何時まで待つて居てもそれが利いて來ない、そう云ふ塲合には或は醫師か病人に藥劑を餘分に與へると危險と思つて斟酌し過ぎて用ゐる方が輕かつたのであるが、或は其藥は良くても病人の身體に利の少ない方の藥であるかも知れないのでありますからして、其時分に二度分も三度分も藥を貰つてありますならば、何時二度目の分を飮んで宜いかと云ふことは六ヶ敷いことであります、若し醫師が其處へ藥を二回分なり三回分なり置いて行きまして、若し是れて痛みが治まらぬやうでありましたならば二度目の藥を用ゐなさいと、斯う言はれた時分に病家の方で醫師に念を押して聽いて置かなければなりませぬ、或は何分間位で此藥が利いて參らぬ時には後の一服を飮ませまして、よいかと云ふことを念を押して、病家の方で醫者に聽いて置く位に致しませぬと二度目三度目の藥を貰つて置きながらそれを用ゐる塲合が分らぬ、其外用ゐ方に依つても隨分藥の利かないことがあります、それは又他の塲合で申した方が宜いでありませう

醫師は是だけの藥をやつて於けば是れで十分痛みか取れる、或は眠氣がさして來ると云ふ考でやつて置きましたものが、案外病家の方て服ませ方が下手で

ありまして、醫師の思つた程に藥が腹内に納まらぬことがあります、さう云ふ場合は甚だ困つたもので、醫師の方では十分利くと思つて與へたものが即時に利かずに居ると、繰返して又同じ藥を與へて服ませると云ふことになれば醫師の考へたことより二三層倍も利き過るぎとことになります、是は最も危險なことで、醫師の方でも注意をし又藥を受ける人の方でもそれだけの注意をしませぬととんでもない間違を起します、

今一つは一遍服みました藥を吐いて仕舞つた場合、之が誠に仕惡い場合であります、私共は自分に心得がありながら隨分藥を吐いて仕舞つた時には些と考へなければならぬ、どの位其藥が納まつたか實は分らない、茲で一遍藥を飲んで吐いて仕舞つたと云ふ場合には餘程考へものである、吐きは吐いたけれども藥だけは腹中に納まつて居るかも知れませぬ、藥に目標があつて、赤いとか白いとかそつくり飲んだだけ位の分量が吐いたものに着いて居れば、是は全然利かない、もう一服藥を服ませると云ふことは素人でも出來ますけれども、吐く間に相應の時間でもあれば幾分か藥が利いてそれから吐氣が來たのだから後は飲まぬても宜しいと云ふことが鑑定が付きますけれども、其の相應の時間と云ふのが醫師でなければ素人方にはお分りにならぬのであります、それ故に藥を醫者から貰つて二遍ぶりなり三遍ぶりなり貰つたものはそれを飲ませる時分に之を用ゐて何分間經つて利目が見へなければ二度目を飲んで宜からうとか、或は此藥を飲んで吐きてもしたならば二度目の藥は直ぐ飲んでも宜からうかと云ふことは醫師の方が忘れて示さなかつたならば、病家の方が注意して醫師に聽いて貰ふやうにすれば決して間違はない

それから飲ませ方で大變な間違を來すことがあります、之は其藥の壜を其儘にヂッと置いて上澄からばかり飲んで行きますと、上澄の所はどうしても藥が稀くなつて居りますから、稀い間は害はございませ

ぬが底の所を飲むと藥が重くなつて澤山に沈んで居ります之は、目には見えませぬてす、藥が水のやうな色をして居ても自から下の方へ沈んで居りますから沈澱の所を飲むと意外に其時惡い藥に中てられたやうな症を起して來ることがあります、一つの病氣がある上にさう云ふ藥に中てられて不意な症を起して來るやうなことがあります、さう云ふ譯てありますから藥を飲む時にはどの藥でも（稀には振つて惡いのもありませうが）先づ大抵振つて飲むやうにすれば底の方の強い所を過つて飲むやうな惧がないのてあります總て藥を飲む分量は醫師の命令通り飲んて決して其藥を餘計に飲んだら早く病氣が癒ると云ふことは誤りて、却つて其爲に危險を起すと云ふことの戒めてあります、是から醫師に貰ふ藥の形のことを申上げます

藥と云ふものは何時でも水藥なら水藥、散藥なら散藥て、どの塲でも形が極つて居りますと便利てありますけれども、餘儀なく色々の關係からして丸藥にもして行かなければならぬこともあり粉散にして行かなければならぬこともあります、散藥と云ふものは口に這入つてパッと口中へ廣があるから厭がる人もあり、又丸藥の粒は丸呑に飲むことに馴れませぬ人てすと些つと大きい丸藥の粒だと嚙碎かなければ飲めないと云ふ病人もあります、どの塲合でも一番好いのは水藥であります、けれども水藥にして病人にやることが出來ぬ塲合がありますからそれ故に藥の形は色々に作りまして病人に授けるのであります

第一どう云ふ目的で藥の形を變るかと云ふと一度に飲みます分量、藥を一度に飲ませる分量が前申す通り大切なるものであつて極く正確に秤量にかけたやうにキチンと極つて居らなければならぬからして其飲ませる分量を確かに極める爲に丸藥又は散藥と云ふやうなものに拵えてやることがあります、それから飲むのに便利な爲に丸藥や散藥に致すこともあります、それから藥を調合致しますことの手數を省く

爲に成るたけ容易く輕便にする爲に藥の形を變へることがあります、同じものを用ゐる場合でも斯う云ふ工合に調合すれば輕便であり斯う〳〵すれば手數であると云ふ場合には、どんな高い藥價を拂つても其邊に差支ないと云ふ資力のある者には成るたけ叮嚀にして奇麗にして與へます、若し貧民であつてそれだけの資產が無い場合には少し位飮惡くても我慢して飮むから成るたけ安くしたいと云ふ時には藥品の高下は付けませぬが、一方は手數を省いてやり一方は叮嚀に拵えてやると云ふことは隨分醫師又は藥劑師の方には自在に出來ることである、さう云ふ場合には一方は丸藥とし一方は散藥でやると云ふ工合にあることもございます、それから水藥などに致すと直に腐敗して仕舞つて困る場合があります、夏期などに於きましては直に腐敗することがあります、さう云ふ時には矢張り丸藥が粘藥にして置きますと暫くの間は腐敗の恐れがありませぬから其爲に形が變つて來ることもあります、それから旅行中などに用ゐます藥は成るたけ散藥か丸藥の方に拵えて置く方が宜しい、万一壜の口がゆるんで居て他の物が濡れて仕舞つたり、そればかりでなく急に用ゐやうと思つて藥が漏れて仕舞て壜を見ると中が空になつて居たと云ふやうな不便がありませぬから、携帶の便の爲に散藥とか丸藥なやうなものに拵えてやることもあります

それから香氣の高い麝香や何かの這入つたやうな丸藥の類などは普通の丸藥に致したばかりでなく、もう一遍金箔か銀箔のやうな箔を掛けて仕舞ふ、永く貯へても香りの拔ないやうに仕組んだものなどもあります、今日では駄菓子屋などに賣つて居ります砂糖を平たくして三角の形にして薄荷を入れたり蜜柑の油のやうなものを入れて砂糖を打延ばした薄荷糖などがあります、さう云ふものは人かなぐさみに食べるものゝやうになつて仕舞ひましたけれども、昔は砂糖の中へ藥を入れて多くは三角の形に拵えて、さうして其中に鱗形に筋を入れたのがありま

す、是はどう云ふ譯かと云ひますと丸藥にして置きますとボロ〱して一粒や二粒は紛失して仕舞つたと云ふやうなことがあります、然るに此平たい三角形に拵えて置きますと散つたり落したりする恐れがありませぬ、小さく鱗形になつて居る所をパチン〱と一つゞつ打缺いて食べれば其小片の中に藥が幾ら入て在ると云ふことの分量が極つて居りますから、飲み好くもあり分量も一の鱗の中に幾ら這入つて居ると云ふことは正確に極つて居り携帶にも便利であります、種々の便利な所から同じ藥でも右の如く拵えることもございます、今日では段々さう云ふ藥の飲ませ方はなくなつて參りました、併し隨分是は便利な法でありますからして全くそれをなくするには及ばまいと思ふのであります、

昔は日本でも煉藥と云ふものも澤山ありましたけれども、今の西洋流では用ゐなくなりました、煉藥などは昔の法ではありますが決して惡いものではありませぬ、殊に子供などは甘草でも這入つて居りますと喜んで嘗めるやうなことになります、蜜や甘草などが入れてあると嘗める、小供などには非常に都合が宜しいのであります

藥の形の御話を致しましたが病家の方では都合に依ると醫師の方に請求致しても宜しい「どうも水藥では都合が惡うございますから丸藥か散藥にして頂く譯には參りますまいか是れでは都合が惡うございますから」と言つて醫師に御頼みになれば宜しい、何でも醫師の授けたものに服從して嫌でもそれを用ゐなければならぬと云ふ譯ではありませぬから、打明けて話して是れでは都合が惡うございますから他の形に變へて戴く譯に參りますまいかと言へば醫師の方では變へて與へて差支ないものでありますならば病家の頼みを容れて差支ない以上は變へてやる方が宜しいのであります、ソコで先づ水藥なり散藥なり病家の方で藥舖又は醫師の手から貰つたと致しまして、其藥が同じ藥でありながら是まで貰つた時より分量が餘計な時或は少し位少ない時もあり、又は色

合などが違つて居ることもあります、それから丸藥の大粒なときも小粒なときもある散藥であると一服の包が大きい時小さい時などがあります、若しさう云ふ工合に病家から藥を貰ひに行つて今迄のと違つて居ると直ぐ疑ひを起します、それは起す方が宜しいので、默つて醫師の方で授けられたと云つて持つて來ると此前申したやうな藥間違があるかも知れませぬから色合などが違つて居つたならば必ずそれは念を推すが宜い、此前とは色が違つて居りますが、何かお加減になつたのですかと言つて念を推す醫師の方で「變りはない」と言つたら「それでは飲方は變りはございませぬか」と重ねて尋ねた上で飲ませれば間違はない、若しそれで間違あれば醫師の方に責任があるのでございますから、それを申さずに授けられたものを持つて來て、此前のは黑かつたが今度のは赤い色になつたと云ふやうなことを注意せずに居りますと過ちがないとも申されませぬ、何故さう云ふ必要があるかと言ひますると藥は調合の仕工合に依つて甲乙丙と二ツも三ツも藥を合はせる時分に甲と丙を先に合せてそれへ後の乙の藥を混ぜると赤い色になります、それ等の順序が初め少し狂つて甲乙丙丁と云ふ工合に藥を入れて見ると黑ずんだやうな色になることもあり青味かゝつたやうな色になることもあります、一寸藥を入れるに就て前後の變つた爲に赤い色の藥が赤くならないで黑くなつたり萠黃の色を帶びたりするやうなことがあります、けれども一向藥の性に於ては變りはありませぬ、分量も變つて居ない、只調合の順序で色合が變ずることがありますからさう云ふ時には是非念を推すことが必要であります、醫師の方でも別に藥が變つたのではない藥の調合の工合に因つて變つたのであると云ふ注意を促した方が宜しい、

丸藥の分量にしても矢張り大い時もあり小さい場合もあります、殊に水藥でありますれば、其分量を定めて何遍でも壜の肩まで一杯にするやうなことは湯なり水なり注ぐと其分量が變らぬやうになります、

散藥や丸藥であれば後から湯水を差すやうな工合には參りませぬ、是は或は匕加減に依り、湯氣の加減で固く出來る時もあり、分量が多い時もあり少ない時もあります、其多かつたり少なかつたり軟かかつたり硬かつたり致しますのは調合の方で差引くと大抵ては藥の方に格別變りはありませぬ、只だ湯氣の加減で、今日は斯う云ふ工合に拵えると天氣が濕つて居るからベタ／＼になつて居る、それには此藥品を餘計にしなければならぬと云ふので加減をします、病家の方では其加減を知りませぬから何でも目先が變つて居つたら注意するが宜しい、默つて行くやうにせずに「お藥が變つたのでありますが、飲方が變りませぬでも宜しうございますか」と云ふやうに念を推した方が宜しうございます、私が初め「藥の話」の時に申しましたが、醫師の所に藥を取りに行きます者は中々責任が重いものでありますから、耳の遠い婆さんだの家に居つても役に立たない爺さんや小供のやうな者を此大切の藥取りにやるのは抑々病家の方心得違てありますから是は堅く戒めて置かなければならぬと思ふのでございます

近頃では通例一寸致した小說の中の挿繪などを見ても病人の繪と云へば傍に盃があつて其上に壜が載せてあります、而も其壜は藥壜の分量の度の示してあると云ふのが今日の一般の狀態となりました、それでありますからして先づ廣く用ゐられて居る所の藥と云へば先づ水藥でありますから水藥のことからお話を致して置きます、

水藥は昔からの沿革で申しますると、昔漢法が廣く行はれて居つた時分には皆煎藥でありました、煎藥でありましたものが今日西洋流になつてからは皆水藥に變りました、何か煎藥から水藥に變ると非常に變つたやうで、紙に包んでありました藥がガラスの壜の中に這入つて來るのでありますから大層な變化があるやうでありますが、能く本へ戻つて考へて見ますると此煎藥を煎じ或は振出しにする或は酒やアルコールで浸して其藥の利目のある部分だけを引出

してそれに水なり湯なりを割つて壜の中に入れてやるのでありますから、紙へ包んで貰つた煎藥が壜の中に這入つて來ると變なやうでありますが原の料は皆同じ物であります、決して怪しむことはないのであります、此煎藥を醫師の家で貰つた時代には煎藥と振出藥と二通りあッて煎じ方が少し違つて居ります、今日ではどう云ふ風になつて居るかと云ふと煎藥は殊に依れば病家へ渡してやることがあります、用法は自身で煎じて用ゐるが宜しいと言ッて病家の方で煎じることもありますが、大概は醫師の家や藥劑士の家で拵えて壜に入れて與れますけれども前申しまする通りに水藥にするとそれだけの手數を藥劑士が費すから手數料を拂はなければなりませぬ、若し貧民であつて煎藥は私が自分で拵えますからどうぞ煎藥のまゝで頂けるものならば戴かして下さい」と言へば煎藥の儘やるのが當然であります成るだけ病家の迷惑にならぬやうに醫師の方でも手が省けて宜いから「貴方の方で拵えて下さい」と言へば手が掛つても宜いが、「お安い方が宜しいから」と言つたら其好む所に應じてやるやうにするのが當然であります、

煎藥の仕方は御入用もありますまいけれども後に至つて段々述べますが振出藥などは大概醫師の方で拵えて今日では水藥にしますからお話して置く必要もないやうなものでありますけれども、或は熱い中に飲む方が宜いこともあります、一寸風を引いたやうな時には何か熱いものを食べた方が養生になると云ふ如き場合には藥も熱くして飲む方が宜しい、熱い藥を飲んで汗を取る方が宜いのであります、さう云ふ場合には醫師の家で拵えて貰つたのでは冷えて仕舞ふので、振出しに使ふには藥品を其儘貰つて來て自分の家でザット振出に作つて熱い中に飲むことが必要だらうと思ひます、是は昔流儀では麻の袋などに入れましてさうして藥が這入つた儘で賣つて居ります、賣藥には昔の仕方が多いから小さい袋に入れてあるのが澤山あります、之を大きな飯茶椀のやう

なものに入れて上からグラ〱沸つて居る熱湯を注いて其儘にて小皿を蓋にして置くと丁度熱湯が冷めて、飲頃になりますまでには藥の中から利く部分が煎じ出されて之を冷えませぬ中に飲むと都合が宜しいのであります、或は又沸湯を茶碗の中へ注いでも藥袋が浮いて居て沈まない時があります、さう云ふ時には箸の先へ藥袋を木綿糸か何かて括つて熱湯の中に込押んて湯の底へ藥を沈ませてかきまはして居りますと十分に藥が煎じ出されることがありますが格別難かしい事柄でもありませぬ。私は此前にも申しましたが賣藥の使用を禁しませぬ、賣藥は信仰斗りて利くことがある、賣藥の中には昔風に出來たのもあり今の風に出來て居るのもありますが、さう云ふものを用ゐて見やうと云ふ時には振出位のことも心得て居る方が宜からうと思ひます、

それから水藥の入器でありますが、水藥を入れて在る所の入器でも今日では硝子の工業などが大變進んて參つて藥壜なども勝手自在のものが得られるやうになりました、田舍の極く邊鄙な所へ參りましたら不自由か知れませぬが、モウ少しく都會を成して居ります所では自在に大小の壜が得られます、けれども是まで適當な大きさの壜が自由に得られませぬ時分には、間に合はせに大きい壜の中に少しの藥を入れて置くことがあります、極く大きい壜、假令は葡萄酒やビールの這入つて居りますやうな大きな瓶の中に少しばかりの眼藥などを入れて於いた例しもあります、是は往年不自由の時分には止むを得ずこんなことを致しましたがそれは甚だ危險なことてあります、成るべく藥壜と云ふものは平日吾々の飲食物を入れる器とは形も違ひ樣子も違つて居る物に致したいのてりあます、平日食物を入れます德利などに這入つて居りますと形が似て居りますから間違を來すこともあるのてあります一寸石炭酸てありますとか或は昇汞水だとか云ふやうな消毒や防臭劑に用ゐるものを別に入器を拵えると面倒でもあり手が掛つておつくうてありますから、已むを得す葡萄酒の壜

だとか云ふものに入れて置きますけれども、成るたけ口へ入れて惡い毒にならうと云ふやうなものは飲食物を盛る器の中には入れぬが能い形の同じ間違易い物には入れないやうにすることが必要だらうと思ひます、出來るならば藥の壜は形の變つたものに致して化粧用の香水とか何とか云ふやうな器物とも形の變つた一種特別の物に入れる方が宜いのであります、乃て二通りの便利からして藥壜には大抵度もりがしてあります、彼などは至極宜しいと思ひます、第一藥量りと云ふものを別に用ゐませぬでも筋のある通りに飲んで行けば正確に分量が極つて居ります、香水の壜や或は飲食物などを入れて置く壜にはそんな度盛のしてあるのはありませぬから成るたけ藥の壜には度盛のある方が目標になつて宜からと思ひます、藥壜は藥壜らしき形を具つて置きましたらば間違を自然に防いで行くことが出來るだらうと思ひます、

それから大きい小さいの別は成るたけ他の壜とは變つて大抵藥の分量次第で大きさは分量を副ふた壜に入れて置く方が宜い、大きな壜、ならば大は小を兼ねると言ひますけれども少しの藥を大きい物に入れて置くことくは藥の爲にも宜しくありませぬ、それで中の能く透明つて見ゑるやうな壜が宜しうございます、と云ふのは藥の色が赤いのだの白いのだの二種も三種も藥のある時にはそれが外から一寸分るから餘程便利であります、或は光線が來てはいけない透明つて見える物では藥が變ずるからと云つて眞黒な壜だの青い色をしたのや樺色をしたのもありますけれども光線を避けるには矢張り眞黒なものが宜いだらうと思ひます、眼藥などは黒い壜に這入つたのがあります、藥の性質に依つては是非黒い物用ゐなければならぬことがありますが、其他は外から見えるやうなのが能い元來壜の中は奇麗か汚ないかと云ふことが外から見えるものが宜しいのであります藥壜の中に印しの筋の入つたのが便利だと言ひましたが、筋の附け方が普通市中に賣つて居ります壜は

誠に不正確なものであります、是は大切な藥を盛るのでありますからどの壜でも大小變化のないやうに、モ少し確にやつて貰ひたいと云ふ考がありますが、是は貴嬢方に請求するのではありませぬが硝子製造所の方に向つて大切な藥を盛るのであるから成るたけ正確な目盛の致したものが欲しい、さうして目の盛り方が私共少し氣にくはぬ所がある何となれば今日の藥の分量をはかりまするには昔から日本や支那で用ゐて居つた何斤何兩と云ふやうな古いものは用ゐませぬ、何斤何兩目と云ふやうなものは廢されました、中頃和蘭流が開けました時分には藥の分量を「オンス」「ダラクマ」なんど云ふ妙な藥の量方がありましたが、それか今迄藥の壜の方には行はれて居ります、藥を賣買致しまする時が矢張り古い所は英吉利の量目を用ゐて賣買致して居りますが、醫師の方で病人に藥をやる時には決して英吉利の量目は用ゐて居りませぬ、けれども只賣買する時は用ゐて居りますから壜の大きさや目盛のしてあるものは矢張り昔流儀て目盛がしてあります、此等は衆人方の來歷を御承知ない方は迷ひを生ずるだらうと思ひます、東京や大阪て買つた壜でも青森て買つたものでも同じやうに考へて居りましたが幾分か舊式を脱することが出來なくつて、彼方のは少し大きい、此方のは少し細いと云ふ風に目盛がしてあるのは大なる欠點だらうと思ひます、是非是れはもう少し正確にしなければならぬものだらうと思ひます、然るに今日日本て立つて居りまする目方や升目は目方の方て言ひますと却つて新らしく用ゐて居ります佛蘭西式と云ふ新らしい目方よりは英吉利式の方が日本の在來の升目などにも能く出合つて居ります、今英吉利の一オンスと云ふ目方を大概醫師の方で覺えて居りますはの八匁と覺えて居ります、ソコて其一オンスと云ふものを八に割りました一を「ドラム」と云ふそれが丁度日本の目形一匁に略々似て居ります一オンスと云ふことを言ふ時分には八匁と覺える、又水液を量る一オンスを六ツ寄せて六オンス、

之れが升目の一合になります、故に日本から移して行きますには佛蘭西式よりも英吉利の方が實際覺え易いので、英吉利を用ゐて居る方が便利でありますから賣買では英吉利流を使用して居ります、さうして醫師が病人に藥をやつたり何かする時には佛蘭西式即ちメートル式と云ふ方の分量を用ゐます、今の普通の壜は皆さん御承知てありませうけれども大抵水藥二日分入りてあります、其普通の藥壜は英の六オンス、即ち、日本の升目にして大約一合ばかりになります、それが普通の藥壜でありますけれども其オンスだの日本の一合だのと云ふ量目のことは今日醫師の方では用ゐませぬて皆グラム量になりましたから藥瓶も二百「グラム」入りに造る併し二百グラムを六つに割れば一度の分量は三十「グラム」と三三三三と云ふ端數が出る成るべく藥を服む時分には正確なことを言ひますとグラム量で服んで行かなければなりませぬに藥壜の目盛りは甚だ粗末に出來て在るから藥壜の目盛は壜に依つて少しづゝ大小がありますから此分盛に據らず、別段に藥はかりと云ふものを持つて居つて服む方が確かに行きます、此藥はかりを省きまするには何處の家にもあるものですから茶匙だとか或は食匙だとか云ふもので藥を量つて服みますが是は誠に好ましくないことであります、何となれば匙の大きさなども甚しい不同がありますし、茶匙や食匙にも大小がありますからそんな曖昧な物を用ゐない方が宜い、又金屬で拵えた匙は藥に依つては藥が變つて仕舞ふ、折角の藥の方が變化して利かないことがあります、金屬の匙て飲んだ爲に藥が利かなくなるばかりでなく匙の方が曇つて仕舞ふやうなことがあります、或は新しく電氣鍍金をした匙でありますと藥を二三度服むと鍍金した金が剝げて眞鍮が顔を出して來ると云ふやうなことがあります、彼是れ以て不都合でありますから藥を服むには茶匙だの食匙だのと云ふもので服まなくつて、別に藥を量かる爲に硝子に目盛をしたのもありますし、或は又瀬戸物て匕のやうな形に拵えて其入れ物

に筋が付いて居ります、是は幾グラムと云ふことが判然と書いてあります、是ならば壜に引いてある筋のやうに粗造なことはないと思ひます、それも多數の中だから悉とく正しいと斷言することは出來ませぬが態々物を量る爲に拵えた器でありますから左程不都合なことはないだらうと思ひます、別に藥を量るために拵えた量器は度量衡法と云ふ法律があつて檢定さへも受ける位でありますから、本統の緻密のもので量つたならば此上もないことでありますけれども、法律に背かぬ位に綿密に拵えた物は價が高くなりますし、一々度量衡法の檢定を受けた物で飮むと云ふやうに正確にも行きますまい、兎に角壜に目もりのしてあるものに據つて飮むなど丶云ふさう云ふ粗俺のないやうに望みます

さて藥の分量でありますが、醫師から素人の病家の方へ藥を渡して置いてそれを用ゐる時分に一番少ない分量はどうして量るか、先づ大概一滴壜の口からたらすと云ふことが最も小さい分量でありますけれども其一滴と云ふものは是は甚だ不綿密な言葉でありまして、廣い口の壜から落したのと細い口の壜から落したのとは同じ一滴でも大きさが違ひます、廣い口から出たのは大きくて細い方から出たのは小さい、それから粘り氣があるやうな藥でありますと一滴が大きい、又普通の水よりサラ〳〵して居る氣發油であるとかアルコールであるとか云ふやうなものは同じ一滴でも粘つたものより小さうございます、それ故に俗に一滴と云ふことを申しますけれども、詳しく言ふと一滴でも品物の性質に因り壜の大小に因つて違ひがあるのであります、それで二十滴集めまするど、醫師の方で謂ふ一グラム、先づ之も大約の考ですけれども二十滴たらしまするど目方一グラムになると暗記して居るが宜しい、二十滴以上の藥を用ゐる時分にはグラム量と云ふ藥量りで量つて服むのが宜いのでありますけれども、それ以下の五滴十滴と云ふ少量の藥を服む時には別に滴量器と云ふものがありますか、それは此次に御目に掛けます、

今日は一滴と云ふ一番下から二十滴積ると一グラムそれから先はグラムで勘定して置く方が宜い通常の家で薬を飲みます茶匙と云ふものは五グラム、一寸二十滴の五倍でありますから滴數にすると百滴固つたものが茶匙一杯になります、是も大約の話でありまして餘り正確なことではありませ、ぬそれから獨逸の流儀では小兒匙と云ふものがあつて平日ソップを食べる匙と茶匙と中間のもので小兒匙と云ふ物があります、ソップ匙（食匙）が十五グラムで茶匙の三倍、茶匙三杯でソップ匙一杯になります、それを二杯に割ると中間の小兒匙、即ち七グラム半といふものが出來ます、それから酒を飲むワインの盃を百グラムと致します、水を飲みます（コップを示し）之は些つと小さいかと思ひますけれども水を飲みますコップを二百グラム、と致しますそれが凡そ日本の一合になります、それが英吉利の六オンスと云ふのに出合つて來ます、水の一合も入る樣なさう云ふ大きな物で薬を一杯飲むと云ふことは此節は誠に稀になつて來ました、昔の漢法家時代には水を一杯半入れて一杯に煎ずるとか云ふことを申して居りますが、一杯は殆と一合でありまして一合半と云へば水一合五勺を一合に煎じ詰める、さうして薬を浴びる程飲むと云ふことを申して居りましたが、實にがぶ〳〵と煎薬を澤山飲みましたものであります、今ではこんなに澤山に飲むやうなことはないかと云ふと通じ薬などは隨分澤山飲ませることがあります、殊に天然に山から湧き出ます所の鑛泉を壜詰にして外國から輸入して參ることもありまして、通じて惡い人が持薬に飲む時分には少なくも之に一杯位は飲まなければなりませぬ、さう云ふ時分には二百グラム位量る盃が要ります、それより上は餘り飲む薬には要りませぬ、それから上は柄杓や小桶で量らなければならぬやうになります、それは何の時に量るかと云ふと薬湯を立てる時に入れる、手桶ど何杯などゝ云ふて量ろ時もある是は先づ今日は要りませぬからして薬湯でも拵えると云ふ話の序に申上げます、今

日は水藥と其水を量ります所のものだけにして置かうと思ひます

此次には水藥て極く少しばかりづゝ一滴々々入れてたらして飲みますやうな水藥のことに就て申上げます、其時分には今日は持つて居りませぬから滴ばかりにて一匙づゝ量つて飲むやうな器機を持つて來て皆さんに御目に掛けることに致しませう

邦人の體格

此演說は日本體育會理事寺田勇吉氏の全會に於て述べられしものなり極めて有益なれば寺田氏及全會の承認を經て登載することゝなしぬ

私はこゝに掲げてありまする通り邦人の體格といふことをお話して體格の必要なることを申上げやうと思ひます、我國民の身體の有様は如何であるか、これが健全てあるか將た不良てあるやと申しまするといふと、私が申すまでもなく我邦人を目して健全なりといふことが出來ないのてある、然らばこれを恢復するの途はないかと申しまするに私は充分にこれを恢復するの途があると答へまする、元來我々の體格は前の辯士よりお話しもありました通り、昔は中々丈夫て良かつたものと思はれます、昔の人を今日に比べて見まするど今日の人間より健全てあつたことは種々の點においてこれを證明することが出來やうと思ふのです、即ち壽命の如きまた寸尺の如き體量の如き總て大に短縮し、今人の氣力といふものが決して古人に及ばぬ、今人の體格は決して古人に及ばぬ、然るに我國へ統計學の這入つたことは近來のとてありますから、昔日の事に係る統計上の調査はありませぬが、今人の古人に及ばぬといふ事實は明て、總ての點において劣るといふことを見るてあらうと思ひます、ズットと以上のことは別といたしまして、元龜天正時代の我國民は如何なる國民であつたかと申しますに、體量の點に於ても亦氣力の點に於ても餘程當時は盛てあつたに相違ない、當時吾々の先代は東洋諸國を征服し、東洋の天地において我

日本國は一大帝國であつたといふことは歴史上明である、その後德川幕府時代となりましてから、政府が鎖國の政策を執つてその結果人民が柔弱になつてしまつて氣力銷沈してしまつたのである、且つ又他國と競爭するといふやうなこともなく、國民の進取の氣象といふものは消滅してしまつて居る、それ故既に德川政府以來明治の初年の頃までに、段々我々の躰が弱くなつてしまつて、德川の藩士幷に時の德川政府の機嫌を取る必要のあつた諸藩の人々といふものは、成る可くたけ柔弱なとをして、德川政府に敵對をしないといふ模様を見せて、柔弱なる事實を表示して自分の封土の安全を保んがため、さういふ政策を執つた爲に、それ等の人々は段々弱くなつてしまつた、唯幸にも德川政府に對して、心服して居らなんだ所の諸藩が、明治維新の頃までは武術の訓練等に却々力を盡して、明治維新の際までは餘程丈夫に健康な人間が隨分あつたのてす、所で維新の前に我々の躰の惡くなつたといふとについては、尙他に大なる原因がある、その大なる原因といふ者は何であるかと申しますれば、我の推測によると、血族結婚といふとが大なる害を我日本帝國人民の上に與へたのであると思ひます、御承知の如く三百有餘の諸侯が各相割據して、成るべきたけ他國の人に交際をせぬ、甚しきに至りますと一村內で結婚をするを良とし成る可きだけ隣村の者とは結婚しない、同一村內において結婚をしやうといふやうな規約を設けた町村があつたのである、故に狹い所の範圍において結婚をした結果血族結婚といふことが今日よりも餘程盛に行はれて居つた、これ等血族結婚といふことは私が申すまでもなく甚だ恐るべき害を社會に及ぼすもので白痴であるとか、啞であるとか、盲であるとかその他身體虛弱のものを調べて見るとその多數といふものは親族の間て結婚したもの丶所に生れたもので、佛蘭西などでも現在或る啞盲學校で取調べて見ましたに、百人の盲啞の中八十人といふものは血族結婚の間に生れたものであります、その血族統

が近くなれば近くなる程害を及ぼすことか多大てこれは獨り我々人間のみならずその他の動物においても著しいのです、西洋では今日段々人間が大きくなつたり目方が增して來たといふのみならず、他の動物に至るまでも段々よくなつて來たやうである、これは即ち出來得るだけ血緣の遠い牡を持て來て蕃殖させたといふことか原因となつて血族結婚の害が解つて務めてこれを避けたといふとが本となつたのである我日本人も明治維新前頃までは段々人間が弱くなつたといふ原因の一は我輩は明にこの血族結婚であると思ふのです、詰りこの文明進歩といふ中には人間の丈が高くなり目方が重くなり壽命が長くなるといふとを無論含んで居る現在獨逸人なり英吉利人なりとかは百年の中に一寸丈が伸びて居るまた壽命の如きも同様であつて長くなつて居ることは明かなる事實である英人の四十五の平均壽命が五十年になつた、僅の間に五年增して居るといふことは爭ふ可からざる事實である、英人は現在五十年の平均壽命を持つて居るにも拘はらず我日本國民の壽命はドウであるか、悲しいかな僅に三十七年といふ短い壽命を持つて居る、かういふことであつて見ればドウしても我々は打つ棄つて置く譯には行かない、殊に西洋人は段々大きくなるといふのに拘はらず、我々日本人は段々小さくなるといふのであるから、決してこれを等閑に附して打つ棄つて置くことは出來ない、て昔の人の體格は良つたのであるから我々もその方法を求めて、その方法に從つてやりさへすれば昔の如く矢張八貫目もある具足を被つて戰をすることも出來るやうになる、今日の丁年以上の人で其體量の十貫目十一貫目位なのは澤山あつて風のために吹き飛ばされるやうな人間が多いさういふ人に其の八貫目もある具足を着せたならばモウ却々立つて仕事をする所でない死んでしまうといふやうな始末であらう、要するに我々の躰が左様に惡いその結果ドウなるかといふと第一が邦人の體力が劣等にして且壽命が短いがため對外競爭に堪へない、第二には人

身が不健康なるがため恒久の事業を經營することが出來ない、隨て唯一時の利益を得ることに汲々として居つて遂に種々の罪惡を構成するに至るといふこの二になつてくると思ふ、現在の有樣はコンナ風であつて少くとも現在我々の躰の有樣がこれに止まつて居ればまた我慢も出來ますが、事實はこれに反して益々惡くなつて來ると申しまするのは明治三十四年度明治三十五年における徵兵檢査の比較に依つて事が明かてある、これは陸軍省の調であつて先づこの位私は確實な統計はないと信じて居ります、隨分我日本帝國における統計には甚だ不完全なものがあつて信用を置くことの出來ないものが澤山ある、併乍ら陸軍の數は少いといふ惧があるけれども兎に角完全な統計であると思ふて居る、その陸軍省の報告に依れば壯丁の丈及び體量は年々減少して、三十五年度の調査を卅四年度に比較しますれば身長に於て二分體量に於て十二匁餘を減じてをるのである、かういふ報告か陸軍省から出て居るのである、これ我國のため最も驚き且つ大に悲しむべきことであるといはなければならない、果して斯の如く我々同胞の身の丈けが年々小さくなりまた目方が年々輕くなるとしたならば將來ドウいふ風になる、今日でも既に世界に比類のない位な惡い體格を吾々は持つて居る、苟も文明の空氣を吸つて居る人には我々同胞の如く悲しむべき程惡い體格を持つて居るものはございません、然るに我國民の體格は今いふ通り年々惡るくなつて來るのであるからこれはドウしても我々は打つ棄つて安閑として居ることが出來ない、斯く年々歳々小さくなつて行つたならばしまいにはドウなるか、御承知でもありませうけれども歐羅巴の事ても佛蘭西の人口の殖へ方は誠に少い假令ば我日本の統計は甚だ不完全とは申しまするが例を擧げて見ると人口百人に就て一人づゝ年々人口が增して行くのである、獨逸の如きは一人五分亞米利加は殆ど二人增して行く割合である、然るに佛蘭西はドウてあるかといふに、昨今の所一人といふ數にならずして

僅に〇、二三である、日本よりも獨逸よりも殖へ方が少い、亞米利加に比すれば僅にその十分の一ほか殖へない、さうしてその殖へ方といふものが年々歳々減つて來るといふ有様であるから、何處か殖へないといふ年が來るに違ひない、その殖へないといふ翌年はドウかといへば實際減ずるといふことになる、さういふ理屈に段々年を經るに從つて年々歳々減るといふことになつて來るに相違ないといふので、佛蘭西の政治家、學者連等は非常に心配してこれに就ていろ〳〵研究して種々の調べが出來て居ります、佛蘭西てはさういふやうな惡い原因が解つてをりまするがこれは少し問題外でありますからして述べませぬ、詰る所丁度歐羅巴において佛蘭西が今に人口の殖へない年が來る、その翌年からは減少することになる、これと同じ通りで我國でも矢張りさうだ段々身體長量とも減るといふ確かな事實があつた以上は決して安閑として居られるものでない、元來封建制度の餘弊としまして我國では餘り數字といふことに重きを置かない、年々身長が二分づゝ減る體量が十二匁づゝ減るといふ報告がありましても世人は一向無頓着でをるが、これが歐羅巴において數字の上に現はれた事實とすれば大變な騷ぎであるが、我々同胞は一向數字に無頓着で中にはかういふことが陸軍省の報告にあつたと話すと、相當の智識のある人でもソンナとかあつたか知らん、ソンナ馬鹿なとは無らうと、一向無頓着に過してしまうといふが一般の風であるが、我輩は少しは統計學も研究して居り數字といふものは實に爭ふべからざる貴重なものであるといふ觀念を以て居る、殊にこの陸軍省の報告の如き我々同胞の身長が一人に就て毎年二分づゝ減少するとすればエライものです、日本の人間一人で二分といふ僅かな數でも、これを全國四千五百万の數に積算したならば實に日本の里數にして三十四五里もある、その高さたけづゝ人間の丈が年々減るから却々大變である、また目方で十二匁づゝ減ずるとすればこれは少いやうであるけれども一ケ年

に五十四万貫目即ち五億四千匁減する割合になつてをる、我々の體量を價格に積ることは出來ないが、これを假りに鈍金の價格と同じに見做して計算すると、金は一匁五圓てかあるら一ヶ年に減損する我々の體量の價は二十七億万圓といふ大きな、丁度國庫歳入の十年餘分づゝも減少しつゝあるのである、これをこの儘に放つて置けばドウなるか、年々歳々惡くなるといふ事實があるとすれば、この通りでは將來ドウしても行かない假令て見れば一ヶ年に我々の寸尺が二分づゝ減るとすれば十年に二寸百年に二尺てある、二百五十年經つと五尺になるから、我々の體は二百五十年以后にはゼロになつてしまう（笑聲起る）といふ勘定が出來る甚だ滑稽のやうでありますが數字の上からは二百五十年先には我日本國は無人島になつてしまう、只臺灣人、琉球人、北海道のアイヌ等が殘るかもしれん、先づかういふ計算になる、それからまた目方のからいへばこの方はまだ少し見込が……少し望みがあるけれとも、矢張一年に十二匁づつ減ることゝすれば悲しいかな千二百五十年經つと形が零になつてしまふ、矢張日本は無人島になるに間違ひない皆様勘定して御覧なさい、その通りになるから、併し日本人がゼロになられちやア大變だ、少くともゼロにならないやうにしなければならぬ、否ゼロになることを防ぐのみならず尚この體の大きくなるやうに工風しなければ、ならないやれば出來るのです、やりさへすれば我は出來るといふことは確にお受合申す、今日我々の體格といふものは歐米人から見るとズッと劣つて居るといふことは確かなことで、現に男子に就て申して見ますると歐米人より我々の體の惡いといふ點は身の丈が平均三寸低い目方が平均二貫三百目輕いこれは男子の話てあるが女子に至ると尚一層甚しい差がある、歐羅巴の女と日本の女と比べて見ると實に差の上において平均九寸七分殆ど一尺の差がある、それからまた目方から申しますると殆ど三貫目輕い、それだけ日本の女が西洋の女より惡いのです、日本には外國人

も澤山居らんし、まだモウ一ッは我々は下駄を履いて居るから西洋人と並んでもソンナに見劣りのするやうにも思はれぬが、一度歐米諸國へ行つて見ますると實に我々の如く惡い體格を持つて居るものでは、迚も歐米人と競爭することが出來ないといふ感じが起る、誰でもさうです決して私一人ではない、そこで私が非常に感じたことが一つありまするが、それは或る西洋の工場へ行つたのである、一寸工場へ行つて見ましても却々職工は皆筋肉が發達して丈夫であつて力が優つて居る、その工場は造船會社で我日本から行つて居る職工も二三名居りましたから、その技師に就て日本の職工の模樣を聞いて見ますると、その技師のいふのには貴國の職工とコチラの職工と同一の働きをさせやうと思ひらすけれどもドウもさういふ譯に行かないといひますから然らばドノ點において特に困るかと聞いて見ました、すると向ふの答へるには船の板をしめる所の釘を打つことですがその釘を打つに西洋人の使ふだけの槌が日本人には重くつて使へない強いてこれを使はせて船の釘をしめさせやうとする力がはいらんから充分釘が締まらん止を得ないから三分の二の目方のある槌を當てがふとそれは振ることが出來るけれども槌の目方がそれだけ輕いからこれまた釘の締まりが惡いのである外のとはよいがこれだけは日本人ではドウしても行かないと云つた、これは日本人がソンナに悔しがつても一體體が不充分である丈夫でないからさういふことになるのであるから仕方がない、それのみならずドンナ仕事をさせて見ても日本人はドウも疲れるのが甚だ早い、それが唯勞力における仕事に就てのみ疲れが早いのみならず、精神上の仕事においても同一に疲れが早いのであります、日本では小學校へ行つて見ても西洋と日本とは授業法などにも違ひはあるが西洋の學校と日本の小學校その他の學校とを比べて見ると欠伸をするものなどが日本の學校には餘程多いやうに思はれる、詰り精神が疲れて欠伸をするのであるからしてこれを以て見ても體力

に伴つて精神も直に弱つてしまうことが分る、てドウしても外國人と競争して行かなければならぬ今日であるから、少くも外國人と同じ位にならなければならぬ、これもやる氣でやれば出來るのである決して六ケしいことはない、また歐羅巴へ行て耻をかいた話でありますが日本人が洋行すると不愉快なことが澤山ある、その一を擧げて見ますると私が或る時出來合の洋服を買ふとして洋服屋へ行つて見ると我々を導いてボーイの部類即ち小供の部類へ入れるのでありますから隨分イヤで不愉快で堪へませんが、併し乍らそのボーイの服で丁度宜い加減に間に合ふから仕方がない、大人の服を着て見ると手がヨンナに長がかつたり躰に合ふやうな上着もなければズボンもないといふ有樣で到底間に合はない、それからまた手袋を買つても我々日本人には西洋の大人の手袋を買つては迚も合はない、總て足靴でもその通りで大きくてしやうがない、皆さういふやうな風て日本人の體格と西洋人の體格とは非常に違ふ、甚だ殘念極まる次第である、加之獨逸邊りの田舍へ行つて見ると日本人は大人であるか小供であるか後から見た所ではチヨイと分らないと言つて居るが、面は生長した人の樣な或は背虫ではないかと云はれる、餘程向ふの人から見ると我々の躰が小さくて向ふの人の目につくと見へて田舍では日本人に附廻つて來る、ドウモ馬鹿にされても仕方がない、可なり力の強い日本人でも西洋人に比べると三分の二ほか力がない、向ふの一人に對して一人半もかゝらねばならぬといふ始末だから仕方がない、それで今日の儘て外國人と我々は競争しやうと思へば智力の上から申しても體力の上から申しても大人と小供との競争と申さなければならぬ、さういふ具合であるから早く日本人が西洋人のやうな立派な人になつて競争しなければ殆ど競争しても勝つ見込みがないのである、以上論ずる如く我々の體格は實に不充分であるといふとは爭ふべからざる事實である、然らばこれを更むるとは出來ないと申すと、前にも申します

通り西洋人は段々大きくなり日本人は段々小さくなつて昔の人と比べて見ると今の人は昔の人の肩以下程になつてしまつたといふ有樣であるが、これも詰りやり方如何に依つて大きくもなり小さくもなるのである、ですからそのやり方如何に依つて大きくなつて西洋人と總ての點において充分競爭することが出來るやうになるのです、そこでかういふやうな我々の躰の甚だよくない惡いといふことに就ては原因がなければならない我々の躰の惡くなつた原因は明治維新以後にあらずして維新前にあるといふことは、先程お話し申し上げて置いたのですから再びこれを繰返す必要はないが、明治維新以後の我々の躰が段々惡くなつて來たといふことに就て諸君と共にこれを研究して見やうと思ひます、即ち私はこれ〳〵が原因であるとその原因を捉へて來て諸君にお話して見る積りですが、第一の原因は何であるかと申しまするに今日の我々の敎育法がドウモ惡いのぢやないかと思ふのであります、敎育の仕方がドウモよくないと思ふのです、今日の敎育の仕方の上には大に疑を持つて居る何となれば學校生徒の發育が段々上級に進むに從つて惡くなつて來る、先づ幼稚園の時分には餘程發育がよいが尋常小學に入り高等小學より中學校と段々上に行くに從つて惡るくなる、そこでこの小學、中學等にある年代の時期といふものは最も身體發育に肝要の時期である、この時期において充分に妨げなく發達成長せしめ置かなければ完全な人間は出來ない實に時期と發育とは大關係を有するものであつて、先づこの發育することの最も盛んなる時期の初期において失敗することがあつたならば、その人の成功は失敗に歸してしまうのである、到底發達する時期が不充分であつたならば大きくなつてから充分發育は出來ないのである、草木においても同じことである、その芽生への時分に撓めるやうなことがあつたならば決してその草木といふものは充分に發育成長することは出來ないのでございます、丁度それと同じことで我々人間の幼年の時代に

於る發育といふものは餘程將來のために關係ある大事な時期である、その大事な時期において今申すやうな失敗といふ不幸があつたならば取り返しの付かないことになるのである、即ち青年代といふものは最もこの邊に注意して少しも妨のないやうに少しも挫折しないやうにしなければならぬ時代である、その大切なる時期において今日の教育法はドウであるか今申すやうな風で段々生徒は上級に進むに從つて發育を妨げるやうになつて居ります、ですからドウしても健全なる青年健全なる大人は出來ないのである、健全なる青年健全なる大人を得るには幼年の中に充分にこれを作つて置かなければならぬ、西洋人は小供の時分の體育を第一として體操運動といふことを、その各々の毎日の家業としてさうして老人になつても決してこの體操即ち體育といふことを怠らない終身體育を勸めて居る、實にこれはよい習慣である、所が我國ではまだ却々さういふ風には行つて居らん現在の徴兵調を見ますると勞働者に就て申しますと、百人の勞働者が徴兵檢査を受くる中六十五人といふものは立派に合格するこれに反して學生に就て調べて見ると僅に百人中廿人即ち五人の中一人しか徴兵檢査に合格すべき體格を持つて居るものはない、ドウモ教育を受けて居る人間、學校を卒業したものは、多く病氣がある且つ壽命が短い斯くては實に何のために學問をするか何のために澤山の金を保つて學校へ行くか何のために教育を受くるか一向解らない、躰を惡くする爲めの學校なら寧ろ止めて貰ひたい、學校といふ者は幾分か「スパルタ」的教育でなければ不可ぬのである之に加ふるに特にまた經濟上の點から申ますに西洋では大學の卒業までが先づ二十二三年位になるが日本では大學を卒業するまでには當り前に行つて二十七八年かゝる、高等學校なとは實に數が尠い從つて中學校を卒業したものが高等學校へ這入らうとするには却々六ケしい試驗を受け漸く這入るそれも僅に一部分しか這入れないから中學校卒業の後二年も三年も經て漸く這入る

ものもありますから、詰り大學若しくはこれと同じ位の學校を卒業するには先づ三十才位にならなければ卒業は出來ぬといふことである、日本人は前にも申しました通り壽命が短いのであるから卒業して世の中へ出て社會の用をなすといふ期間、即ち社會に立つて在來の借金を償ふといふ年數はドノ位あるかといふに、高か二十年位しかないそれも學生は別して體が弱くて壽命も短いから十五年位しか社會へ出て借金を償ふ時がない經濟上の點から申すと却々大變な事である、西洋人は前にも申しまする通り壽命が長い殊に學校の敎育法もよいから身體が丈夫であつて無暗に病氣をして仕事を休むといふやうなことがない現在我國の學校へ外國人を雇ふてあるのを見ても日本の敎師は毎日一割位休む、尤も日本人の休むといふ内には勝手のよい假病といふ名前の病氣もあるやうに思はれるが兎に角抵抗力が少いのでチヨツト風を引いても學校へ出ない或は僅かの事にも眩暈がして倒れるといふやうな有様であるか西洋人はソンナことはない大躰休むといふことは一年に一回若しくは皆無である日本に居る、西洋人には隨分屢々人力車などに乘つて餘り運動せぬ、人もある様だが丈夫であるといふのはドウいふ譯であるかといへばこれは小さい時即ち發育の盛んな時分において身體が丈夫に出來て居るからである、だから決して病氣に罹つたり無闇に倒れるといふことがないのである、そこで私が爰に一ツ困つて居る問題があるのでございますが、矢張敎育に關係のあることでありますから、序にお話しをして見たいと思ひますが私は強て我國においては實業學校を盛にさせなければならない特にこの獨逸流の實業補習學校を盛に發達させたいといふ希望を持つて始終獨逸のことを取調べて世人にこれを紹介してからいふ様にしてからいふ風にやつたならばよからう、あゝいふやうな食にしたならよからうとこれは私の頭から出たのではないけれども自分が見聞した所を社會に紹介して居つたのである、そこで一つ困つた問題といふものは實業

補習學校といふのは獨逸には澤山ある實に盛んなものである市街のみならず田舍でも成る可き丈澤山に實業補習學校を作つてその目的を達することに力めて居る、これ等の學校の規摸は如何にも小さい、從つて經費も極く僅少で出來るのである、ナゼ經費が少くて出來るのであるかと申しますれば實業補習學校の敎師といふものは主として小學校の敎員達である、晝間は小學校で敎鞭を執つて普通の敎授をなし、さうして夕刻より再び學校へ出て來て授業をする所謂內職であるからしてさう澤山に金を與へなくてもよろしい、その結果甚だ良好であつて獨逸にをいては實にこの實業補習學校は生徒を敎育して行く最も肝要なものになつて居ります、故に我輩は我國にも實業補習學校を擴張したらよからうと思つていろ〱研究して見ました結果小學校の敎員を夜分補習學校で使ふといふことは甚だ不得策であるといふことを發見した、或る近縣の視學官の報告でありますがドウモ自分の縣では小學校の敎員をして補習學校の敎育に當らしめた所では總て不結果である、ドウモ結果がよくないなぜならば第一敎員が欠席勝である、第二には學校に於て授業上精神がドウモ這入つて居らんやうに思はれる、即ち晝間授業をやつて疲れて居るから夜分の授業は半分は睡つて居るといふやうな仕方である、ドウしても晝間相應に働いて居る所の敎員を夜間再び之を使ふといふことはよい結果を收むることが出來ないといふことであつた、そこで、その視學官に就て、然らば獨逸邊りでは斯の如きよい成績があるか我日本の敎員を保つてその結果は却つて宜しくないといふに就ては、何か原因があるか調べて居られますかと尋ねたら、その後視學官の返事には第一日本人は晩餐といふことをやる、アレガ大變惡い、西洋人は飯を食ふと同時に少し酒を飲む元來「パン」なり肉なりを食ふといふのが主であつて咽喉を潤すために「ビール」なり葡萄酒なりを少し用ふる、之に反して日本では飲むといふことが主てつあて飲んでしまつてから飯を少し食

ふ、それから學校へ出掛るのであるから睡くなつて精神が不活潑であつて完全な敎育は出來ないそれが一の主なる理由である、モウ一つは躰格が惡い晩餐は止しても晝間相當の時間の間授業をして來るといふことゝ心身共に疲れて再び活潑な授業をすることが出來ないから遂に止を得ず假し酒を飮まない人でも身躰の具合が惡いとて欠席するといふことになるかういふ譯であるから我國の實業補習學校において小學校の敎員を採用するのは良好の結果を得ることが出來ないといふ答へであつた、私は成る程と感心したのでございます、ドウモ甚だ困つて外の敎員を使ふとすれば却々安く賴むことが出來ない、敎員を別に採用するだけの金がないのであるから、富の程度の低い我國においては到底出來ないと思ひます、普通學校の負擔にすら隨分苦しむといふ有樣である今日况や補習學校のために澤山の金を使ふといふことは出來ないのである、詰り實業學校は必要なものであるけれども前申すやうな譯であるから我國にて

これを普及せしむることは容易に出來ない、その普及せしむることの六ヶしいといふ原因といふことは我々の躰が惡いとかういふことになる、それからドウモ今日の敎育法は智育の方に偏して居ると言ひます、智育に非常に重きを措いてをるといふことは、我國の弊である何でも先へ進むといふ考を以て高尚なことのみを考へて居るといふことは我國の弊である、故にこれは俄にやらうといふ譯には參りませぬが漸々我國の敎育の方法を改めて行くといふとを一ツ考へなければならない、殊に敎員諸君において大に考へなければならぬことである、また我々のやる今日の學問は即ち西洋から這入つて來た學問で西洋人は我々の先生である、その先生の國においてはドウいふ風に敎育をして居るかといふに一般に智育の點から申しますると程度が低い、その代り敎つたことゝいふものはよく理解しその結果として確實に應用かよく出來る御承知の通り大發明家大學者を續々と作るには必しも無闇に頭の中へ智育を積み込まな

ければならぬといふことはない、少々程度は低くてもこれを充分消化して應用を自在ならしむることが目的であらうと思ひます、尤も向ふの學校へ行つて見て我國に比べて見ると種々なる違ひがある向ふの學校の總てか如何にも活潑であつて一時間ある五十分間あるといふ間の授業も獨逸邊りの學校では誠に活潑に面白さうにやつて居る、我國の學校では殆ど睡つて授業をして居るその代り誠に小供も溫順しいやうである、けれども授業が甚だ不活潑である要するに獨逸の教育は同じ智識を與へるにも活潑の精神を涵養して身體の發育を完全ならしむるやうにやつて居る、かういふことは或日本の學校における教員諸君において特にお考を願いたい、またこの他に德育：：これは我輩の申すまでもない我國における德育は殆ど有名無實で名はあるけれどもその實は行はれて居らんといふても宜しいのである、道德の欠乏といふことは今日は殆ど極點に達したと思ひますが之はこの儘に捨て置く譯には行かない無論ドウかしなければならない、現在高等官なる書記官であるとか或は視學官であるとか會社の重役であるとかその他學校の教師等は皆續々先達中拘引されたといふやふな不始末なことがあるこれ等の人たちといふ者は直接に間接に兒童の手本となつて居る所の人々である、その手本となつて居る人達からかういふやうな不始末で不德義極つた行があつて見れば兒童のためドレだけ教育上に妨げを來したか知れません、德義といふことが缺けて居つたならば商業であらうが工業であらうが決して進歩はしないのである、ドウしても商業なり工業なりを進歩發達させて我國のこれから先の發達進運を計らんとするには不德義なことゝいふ者はスッカリ止めなければならぬ、特に當大阪の如きは日本國における英國のマンチエスターともいふべき工業地または倫敦とも云ふべき商業地であるから一層德義といふことに充分重きを置いて教育を施さなければならない、先づそれには父兄から不德義なことをしないやうにして行くといふことが

學校教育以上に極く肝要なとてあうと思ひます、

（以下次號）

寄書

新潟支會寄送

●牛乳にて小兒を育つる法

新潟支會講師　高橋辰五郎君

牛乳にて小兒を育つる法即ち小兒の人工營養法は、我國に於ては、甚だ幼稚で有て、吾々專門家でも多くは一般に無經驗と云て宜しい。獨逸國などでは、今より四百年前即ち千五百年代から行はれて有ると申しますから、進步致して居るのは尤もで有る。箇樣に、獨逸などで、人工營養法が進步して有りますから、自から牛乳を用ゐて、母が自分の乳を與へないことが多くなつて居る。此習慣が、母より其娘に遺傳致しまして、現在では、獨逸佛蘭西などの中部歐羅巴の國々では、小兒に乳を與ふることの出來ない母が半數を占めて居ると申し升。

母が自分の乳で小兒を養ふのは、生理上から申すと最も必要な事で、小兒の健康の爲めにも、母の身體の回復の爲めにも、大層に大切で、缺く可らざることで有るけれども世が文明に趣いて、繁忙で有るとか、又は色々の家事上の差支の爲めに、牛乳を以て小兒を育てなければならぬ事が段々に多くなりて、結局、自分の乳を小兒に與へる事の出來ないものが增加するのは、免れない次第で有る。

牛乳を小兒に與ふるには、消毒すること、適當に薄めること、每回與ふ可き分量、時間など、心得居る可き事が隨分多くある。其中、必要な事柄を次に說明しよーと思ふ。

▲牛乳を薄めること

牛乳を消毒することは、大抵、人が心得居ることで

有るから、之れを省いて、直ちに薄めることを説てとゝしよう。

牛乳を薄めるには、分量と方法との二つがある。

牛乳を薄める分量に就ては、人々の説が當時は甚だ一致しない。或る人は、全く少しも牛乳を薄めるに及ばないと云ふものも有る。或る人は、頗る多量の水を加えなければならぬとして有る。今、試みに其一二を擧げよう。

獨逸國グラーツ市、教授プラウ ニッツ氏が自己の三人の小兒を、最も注意して養育せられた報告を、昨年中、公にせられたのを見るに、其論文中に、

最初四ヶ月中、余の小兒の與へられたるは、米煎汁又は其類のものを以て稀釋し少許の砂糖を加えたる牛乳にして爾後は、稀釋せられざる牛乳なりき。余が、茲に注意を希ふ可きは、最も經驗ある某醫師の協議により、第五ヶ月より、稀釋せざる牛乳を小兒に與へたるに、小兒は、甚だ良好に之れに耐え得たるに在り。(プラウ ニッツ氏著書三十二頁)

と說明してある。夫れで、今、プラウ ニッツ氏の記載して在る表に就いて、三人の小兒に用ゐた稀釋の分量を平均して見るに次の如くて有る。

	牛乳	米煎汁(凡そ二十五分一の砂糖を加ふ)
第一ヶ月	一、	一、〇
第二ヶ月	一、	〇、六
第三ヶ月	一、	〇、四
第四ヶ月	一、	〇、二
第五ヶ月後	純牛乳	—

箇様に、第一ヶ月には、牛乳と水と等分で第四ヶ月には、水の分量は僅かに五分の一に過ぎぬ。

オールスハウゼン、ファイト兩氏の昨年の産科學には、

最初二三日間、牛乳に二倍の水を和し、次の十四日間は、水及び牛乳を等分となし、爾後は、牛乳二、水一となす可し。

(中畧)近時、牛乳を稀釋することなく唯々、絶對的に消毒を確實にして之れを試用するもの往々之

れ有りと雖ども其數何ほど多からざるが爲めに、未だ正確の斷定を下すこと能はず。云々（兩氏産科學二九四頁）

近頃、シ・エネベックと云ふ人は、

	牛乳	粘滑性液（米又は麥の煎汁）
第一ケ月	一、	三、
第二、三ケ月	一、	二、
第四ケ月	一、	一、
第五ケ月	二、	一、
第六、七ケ月	三、	一、
第八ケ月	純牛乳	―

と定め置て、若し、小兒が消化甚だ宜しく躰重の増すこと少ない場合には、定めの割合よりも濃くするが宜いとして有る。

右の樣に、色々の説を立てゝ有るが、私共の考では、將來、牛乳を餘り薄めぬ方が宜ろしいと云ふ説が勝利を得はせまいかと思はれる。元來、牛乳を稀釋せなければならぬと云ふのは、牛乳中の固形分が多いことゝ、其乾酪質が、堅く固まりて消化し難いからて有る。然るに、人の乳汁と牛乳との固形分を比較して見るに、大略十分の二（五分の一）の差に過ぎない。

	牛乳 郷井氏	人乳 オールスハウゼン氏
水分	八七、一七	八九、九〇
固形分	一二、八三	一一、一〇
乾酪	三、五三	三、九二
脂肪	三、六九	二、六七
乳糖	四、八八	四、三六
鹽類	〇、〇七	〇、一四

箇樣に、固形分が凡そ十二、八と十一、一で、五分の一の差に過ぎないから、牛乳に五分の一の水を増せば、大抵平均する譯である。併し、乾酪質が不消化で有ると云ふ爲めに、更に多くの水を増すので有るか、二倍以上三倍も水を増して薄くするのは、不必要で、却て弊害が有りはせまいかと思はれる。其第一には、牛乳を稀釋する爲めに、脂肪の割合が甚だ不足して、消化惡しく、便秘を招く事になる。此場合にビエデルト氏抔は、牛乳の脂肪分即ちクリー

ム(ラーム)を乳汁に加へて、補ひを附ける事に致して有る。クリームを加へる事は、頗る手數で且つ不經濟てあるから、容易に行ふことの出來ない場合が多い。

結局、牛乳を薄めねばならぬのは、牛乳の中の乾酪質は、人の乳汁に於けるものよりも堅く凝固して、不消化で有ると云ふに過ぎないので有るが、ブラウニックの云ふが如く、一倍位の水を和したならば、餘程消化し易くなりはせまいか?。此等は、我々が、將來十分に研究せねばならぬことで有る。

▲牛乳を薄めるの方法

牛乳を薄めるには、從來、我國では、單に水を用ゐて居る樣で有るが、米か挽割麥の煎汁を用ゐるのが宜ろしい。其方法は、米又は挽割麥を、大きな匕即ち食匕に、堆かく一ぱい盛りて、之れを凡そ五合の冷水に入れ、且つ食鹽を小匕に半分即ち五分程を加へ、火に掛けて、徐々に煮沸せしめ、煮ること三十分間にて、湯を加へ、以前の五合の量となし、之れを濾して、牛乳を薄める料となすが宜しい。但し、之れに凡そ二十分の一即ち大約十二匁の乳糖又は棒砂糖を加ひるのが勿論の事で有る。箇樣に、粘液性の液を用ゐる時は、消化宜しく且つ便通を佳良にする利益が有る又、食鹽も、幾分か消化を扶け、其上、骨質の發育が宜しくなると云ふて有る。

◉不妊症の%數(十乃至十三%)　ビーナルド氏及びチュー、リヘット氏か佛國に於ける人口減少の生理的研究に就ての報告中に曰く

統計的の研究によるに佛國に於ける人口減少は不妊症に基づけるにあらず總ての國々に於ける不妊症の數は十乃至十三%にして其原因は生殖器疾患に因れり。

佛國に於ける人口の減少は生理的に因由するものあらずして單に結婚者が生兒の數を制限せんことを希望するに基づくものとす云々

(獨逸中央婦人科雜誌一九〇三年第卅一號)

●家庭衛生に就て

賛成員　關　善重郎君

私は過日新潟縣の傳染病豫防法規を一見致しまして俄に思ひ付きましたる所が御座いました故、家庭衛生に就てと云ふ題に就きまして此の盛んなる大日本婦人衛生會の會員諸姉に御照會致す積りで御座ります而して今回茲に記述致しまする事柄は家庭衛生の一部分即ち傳染病に對する豫防注意に就てゞありますから寧ろ題號は傳染病豫防法と書きました方が至當かも知れません而して傳染病豫防法に就ては既に皆さんは書物上若くは衛生談話等に依つて御存知の事とは思ふて居りまするも未だ嘗て之れが實行と云ふことを完ふ致して居りまする人は甚だ少數であります故に殊更二三の例を掲げまして實行と申しまることを御勸め致す次第であります

さて傳染病は感染と申しまする事がありますから一寸考へますると大層恐るべき病の如く世の人は思ひまするが豫防法及び消毒法さへ十分に行き屆ひて居りましたならば別に恐れる程のことはありますまいと思ひます、如何に劇烈なるペスト、コレラ、赤痢でありましても感染さへ致さなかつたならば實に安全のことゝ思ひます然しながら一朝感染致しますると之れまでは至極に無病健全なる人も俄かに斃れると云ふ如き危險も御座いますが其れ等は皆豫防法を怠たりました結果であります尚ほ且つ醫師、看護婦等が不注意粗漏の結果から感染して遂に斃れる者がありまするが之れ等は甚だ恐の至りだと思ひます傳染病は年々増加致しまするのみで減少若くは撲滅の時は殆んどないと思ひます之れを減少若くは撲滅致さんとするには餘程嚴重にして極端なる豫防法を實行致しませんと畢竟增加するのみであると思ひます之れを以て一家の主婦たる或は婦女子たるものは其豫防法を怠らず致しませんでは万一に際して案外なる不幸に陷入ることがあります、而して茲に私が論じまする傳染病とは政府の規定せられてありまる所の傳染病の外に尚ほ傳染致しまする病氣がある

に由て注意致さねばならないものは肺結核、淋疾、肺炎、丹毒、梅毒等でありまするが之れ等の病ひも矢張り一種の病毒に依つて發起するものでありまするから注意して消毒法を行はなければなりません傳染病の流行致して居りまする時は殊更ら注意を致さねばなりませんが常に最も注意すべきは皆さんの御好みの御菓子であります此の菓子は總て味が結構でありますから何人も能く食しますが其菓子を製造致しまする家の不潔でありますることゝ之れを製造致しまする職人などの不潔でありますることは私が申しませんでも既に御存知のことでありましやうが斯る不潔のものを無上に御好みになつて貴賤貧富の別なく之れを食しまするは甚だ遺憾と致しまする次第であります倘ほ此の菓子製造致しまする職人は勿論此の菓子屋などに如何なる病人があるか分りません殊に傳染病に罹りて居るものでもありまするとは甚だ危險千万ではありませんか、故に皆さんは總ての御料理法も御存知でありましやうから菓子等も成るべく自宅に於て御拵へになつて、御買ひになりまするは御止めになつた方が衛生上安全なることは申すに及ばず經濟上に取りましてもよいではありませんか、其れから砂糖でありまする此の砂糖は口に入れますと甘くして味が結構でありますから子供は勿論何人でも宜しく食しまするが砂糖を製造致しまする所から又砂糖を販賣して居りまする砂糖屋などでは夏期蠅が居りましても砂糖箱に蓋も致しませんで數多の蠅が附て居りまする所を見受けましたが、皆さんも目撃されたでありましやう倘ほ蓋がありませんから種々なる塵埃が這入て居りますから甚だ不潔且つ如何なる黴菌が砂糖に附着して居りまするか危險なることではありませんか、故に砂糖を皆さんは御買ひになりました時は直ちに其儘食しまするは甚だ危險でありまするから熱湯中に投入致しまして暫時（成るべく長く）之れを沸湯して砂糖湯にして食しまするを最も安全なることゝ思ひます、倘ほ皆さんが一寸御氣に付きませんてしやうが食後御使ひになり

ますする小楊枝でありまするが之れは大道などで賣つて居りまする不潔のものや又不潔なる職工などが拵へたてありますから之れを御買ひになりました時には必ず熱湯中に二三時間以上投入致しまして熱氣消毒をして後でなければ使用致しまするは危險てあります

終りに臨んて今一つ申し上げて置きますが他家へ參りますと直ちに御茶を下されますが其時には其茶を飮みまするは餘程危險てあります何となれば其家に如何なる傳染病患者がありまするか分りますまい若し其家には決して斯る患者はないとしても他より如何なる結核性又は梅毒性の人が來て其器物に黴菌を殘染してあるか知れませんからてあります尙ほ且つ自分の家に來客のありました時にも其人は如何なる病氣があるか分りませんから御茶などは成るべく出さないで置くが宜う御座ります尤も是非共御茶なり其他のものを出すべき場合には餘程御注意をなして其茶碗は先づ熱湯中に入れて十分なる熱氣消毒をして後てなければ使用致しては不安全てあります其の他の器物も何器物に係はらず消毒を致しますることは必要てあります

私が只今申し上げたことは二三の極端なることてありまするけれども尙ほ土地及び家屋の淸潔と水及び總ての飮食物に注意して新鮮なる空氣を呼吸致しまする等、又現在患者のありまする時は其患者の排泄物中分泌物を消毒致しまして患者を隔離致し健康者との交通を遮斷致しまするは勿論各種傳染病に依て適宜に豫防法を致しまするは最も必要なることゝ思ひます



一口話

ドクトル　富士川　游

(七)婦人の病氣

諸般の病氣の內にて、婦人に起ること多き病氣は次

の通りてあります

舞踏病（神經病の一種）

百日咳（男兒一人に對して女兒二人これに罹る割合）

甲狀腺腫（頸の下方に在る腺の腫脹する病にして、男子一人に對して婦人十人これに罹る場合）

バセドウ氏病（眼球突出し、甲狀腺腫、心悸を起す病）

姙婦テタニー及び初生兒テタニー

胃テタニー

慢性關節僂麻質斯

ヒステリー

偏頭痛

色素異常及び亞兒箇保兒性神經炎

紅斑性狼瘡

粘液浮腫

右に擧げましたる病氣は、男子よりも婦人に起ることの多きものでありますが、これよりも猶ほ面白きは、婦人の生活の方法のために、婦人の方に多く起る病氣であります

膽石病と申して、膽嚢の內に石が出來て、腹部（肝臟部）の劇しく痛む病氣がありますが、これは男子一人に對して婦人三人の割合にて、婦人の方に三倍ほど多く起る病氣であります、これは婦人が多く室內に坐りて其日を送るのと、腹を締めるのが主なる原因であるといふことであります、涙嚢の化膿は男子一人につきて婦人十人の割合にて、婦人には男子の十倍ほど、起ることが多いのでありますが、フックス博士の說によりまするとこれは婦人が泣くことが多いからであるといふことであります、眞にソウであるか、ないかは分りませぬが、兎も角も婦人に多いといふことは確かであります

（八）婦人の長壽

何れの國の統計を見ましても、壽命の長くして、百歲以上に至れるものは、多くは婦人であります、それて婦人は元來病氣に抵抗するの力が強くして、長

害の天性を有するものであるといふ說もありますが、事實は決してそうてはありませぬ

男子と婦人とが、病氣にかゝりまする種類を調べて見ますると、前段にも一寸述へましたる通り、婦人に多い病氣と、男子に多い病氣とがありますが、これは婦人と男子とが、今日の處て、生活の方法が違ふからでありまして、結核や癌腫や虎列剌やペストや天然痘などの病氣になりますと、男子と婦人の間には、左ほどの相異はないのであります

然るに、男子が婦人よりも早く死ぬるのは、其生活の方法に關係することて、酒を飮むことゝ、花柳病に傳染することが、最も主なる原因であります

この事につきましては、獨逸のメーピウスといふ人が近頃面白き書物を著はしまして、男子の病氣と婦人の病氣との區別を論じて居りますが、私の信ずる所に依りますればこれは實に有益の研究でありまして、婦人の衞生などを論じまするにはこういふ風な根本の問題より解释せねばならぬことゝ思ひます、いづれ委しきことは後日別に御話いたしませう

（九）肺病養生院

今日我邦に肺病（殊に肺結核を指す）の蔓延せることの甚しきは實に驚くべきであります、然るに、公に之を豫防するの方法の行はれて居らぬのも亦實に驚くべきであります、今日の學問の程度では、傳染病を豫防するには、その根元たるべき病人を健康の人より隔離するのが、第一でありまして、虎列剌、赤痢などにては、我邦にてもこの制度が行はれて居りながら、虎列剌、赤痢などよりは數倍も人命を奪ふことの多き肺病は、公には一人も隔離せられて居りませぬ、獨逸のことなどは本雜誌にも已に諸家の御話が出て居りまして、諸姉も善く御承知のことてありませうが、近頃の調査によりまするど、獨逸國内には公立の肺病養生院が、五十九箇所ありまして、入院患者數の規定は七千人、一年間の入院患者總數三万人、皆公費には慈善家の恩澤に浴して、病氣の養生をして居るのであります、此上尙ほ二十三個の

養生院の設立せらるゝ計畫にて已に着手せられたるものもあるといふことてあります、實に羨ましきことてはありませぬか

我邦の當局者は衞生に熱心の方々のみであります、我邦の慈善家は澤山にありまして國利民福のためには金を費すことを吝しむことはありませぬ、さればこの廣大なる日本帝國の内に一つや二つの公立肺病養生院は有つても差支はありますまい



醫學士　石原喜久太郎

◎肺病の原因に就きてベーリング氏が新たに發表したる説

學問社會の事は實に一日も油斷がなりません、昨日迄行はれた説も、今日は最早陳腐になッてしまうといふ鹽梅で、だん〳〵と新らしい實驗なり學說なりが出て來る、ウッカリすれば時世に遲れると云ふ具合であります、しかしまた、後から出る說が必ずしも正當であると云ふわけには參りませんから、新らしい說でも、すぐにはまた信用することも出來ないのであります、

普通に云ふ肺病即ち肺結核と申す病氣に就きましては、皆さんも常に御注意でありましやうし、また、本誌上にも毎々書き述べてありまするのですが、何分、是に罹る人の數と云ふものが多くて、また、なほりかぬると云ふ點より、今日ては、實に人世の大敵と見做され、從ッて、此の病氣の豫防撲滅と云ふことに就きては、世界の學者が非常なる熱心を以て研究して居るのでありまして絶えず其の研究を公に發表致して居ります、

茲に掲げましたベーリングと申す人は獨逸の黴菌學者で、醫學社會に大層高名な方であります、彼の「ヂフテリア」の血清療法を發明して、小兒の救生者と

も云ふべき程のいさほしを建てた人てあります、此人はまた、結核病のことに就きても、色々と研究を爲したのですが、つい此頃新たに世間に發表致されました肺病の原因に關する説は、是迄世人が信じてゐたこととは大層趣が異ッてゐるのです、夫故、茲に一寸御報知申上げましよう、それに先ち少しく述べ度いと存じまするは、二三年前に彼のコッホと云ふ黴菌學の大家が

●牛の結核病の病原である處の牛結核菌と、人間の結核病の病原である人結核菌とは同一のもので無い

それであるから牛の結核菌は人間には移らぬものであると云ふやうなことを申されました、何しろ此コッホと云ふお方も、是迄非常に澤山の發明を致された學者であッて、醫學世界に重望を持ッてゐる方てすから、此の説が出てまして以來、世界の醫學者は、大變に注意したのてす、それからと云ふものは、色々と研究する人があッて、大抵は其説に反對の結果となりました、ベーリング氏も、コッホ氏の説とは反對て、牛の菌も人間の菌も同一であると云ふことを申されました、

人間が滋養品として飲用致しまする牛乳を搾取すべき乳牛には、隨分結核病に罹ッてゐるのが少く無いのです、從而、其乳汁には結核菌が混じてゐるてあらうと云ふことは想像が出來まする、處で、コッホ氏の申されし如く、牛の菌と人の菌と異ッて居れば、牛の菌が乳汁に混じてゐても害は無い筈てす、然るにベーリング氏の申されし如く、牛のと人のと同一てあれば、乳汁の中に菌がゐることは、大變に恐るべきこととてあります、しかして、前申す通り、目今てはコッホ氏の申された、牛と人との菌が異ッてゐると云ふことは、事實で無くして、やはり、ベーリング氏の申さる通り、牛の菌も人の菌も同一物てあると云ふことに略ぼ定まッたと云ッて差支無いのです、依て牛乳は大に用心せねばならぬのでありましやう、處で

●此度ベーリング氏が公に致しました處の說

は、どうであるかと云ふに、肺病の原因は主に牛乳である、牛乳の內に結核菌がゐて、飲用すれば腸にゆき、其處から結核菌が身躰の內に這入り、數月、數年、十數年の後に肺にゆき肺病を起すと云ふのであります、是迄の說では、肺病の病原である結核菌は主に呼吸から肺に這入ッてくると云ふのです、處てベーリングの新說ではそうでなく、始めに消化器(食物を消化する臟器のことです即ち胃や腸なぞです、)に入り、これを經て肺にゆくと申すのです、是が說の異る主眼です、

○ベーリング氏の云ふ如くなれば肺病の豫防等に就き是迄とは大に方針をかへねばならぬこととなる

のです、前申す如く今迄は、肺病の感染のは、主に呼吸からくる、肺病者が、咳嗽や噴嚏やなどをすれば結核菌がとんで出る、それが空氣中に飛散してゐる、それを呼吸すれば、肺病の素因(肺の弱い人など)ある人はこれを感染る、また、肺病者の咯き出した痰も結核菌をもッてゐて、それが乾いて塵埃など丶一緒に空氣中に立ちゐて、呼吸により肺に來てくッつく、と云ふことが隨分に重く見られてゐたのです、けれども、勿論、胃を經て腸にゐき腸結核を起し、更に肺の方にもまわると云ふことも信じられてゐたのですが、トニカク、呼吸により直くに肺に往きてくッつくと云ふことが、主に見られました、處てベーリングのは見方が違ふのです、主に腸からゆくのである、腸の內面の粘膜と云ふやさしい膜を通ふりぬけて、身躰の何處かにゆき、それから肺にゆくと云ふのです、夫に就いては其論文中には種々と證據も並らべ立て丶あります、

斯樣になつて來まするとと云ふと、肺病の豫防は主に飲食物、殊に乳汁を充分消毒して飲用せねばならぬ、主に腸から這入ッてゐくのであるから、此處迄來ないやうに豫防せねばならぬと云ふことになりま

す、無論また、是迄も、牛乳の消毒は注意してあッたのですけれども、肺病の門は腸からて無くして、ちさに肺からてあると信じてゐたのですから、同じ注意をするにも、其度合は輕かッたのでありましやう、ベーリング氏は幼き小兒に死亡が多いのは牛乳を多く用ゐる爲めてある、と云ッて居られます、それて、ベーリングの說に從へば、肺病豫防の方針は牛乳の消毒を充分にせねばならぬ、これが主眼てあると云ふのてす、

○今後實際にどうすればよろしいか

と申しまするに、如何に大家の申されまするとても、それてすぐに、世界の學者が皆これに風靡する、歸順すると云ふには仲々いかないのてす、けれども、此度ベーリングの發表せられた說は歐羅巴ても大層注意を惹いた樣子てす、あれ程の大家の申されまする事てあれば、トニカク牛乳の消毒を充分に注意致さねばならぬ、是迄よりは一層嚴密に注意せねばならぬ、そう致すのが至當と信じます、しかしながら、私が唯今の處で考へますれば、譬へ、ベーリング氏は肺病が主に腸から來るので、呼吸器からは來ることが少いと申さるゝにもせよ、肺病者の喀痰や、咳嗽や噴嚔等にもやはり注意を怠ッてはならぬ、是等の物の爲めに食器や飲食物が汚さるゝことも有り得べく、また、今迄通り空氣から呼吸によりてすぐに肺にくッつく事も有り得べき事てあらうと信じます、夫て、今後はベーリング氏の說通り牛乳に注意をすると同樣に是迄通りの注意を以て豫防をするのが萬全の策てあると云ふのてあります、尙ほ

○ベーリング氏は肺病を豫防するには彼の種痘で疱瘡を防ぐやうな方法によって人の身躰を免疫することが出來るてあろうと申してゐます

此事は無論、大問題てす、說明が容易て無いから詳しくは申上兼ねますが、此免疫と云ふことは一口に云へば、種痘をして置けば、疱瘡即ち天然痘に對して免疫となると云ふ通り、其の病氣に罹らぬやうな

躰質になると云ふ意味であります、右は新らしい說であり、また、誰れでも心得てゐて益あることゝ存じまして一寸御知らせ申上げます、

質疑欄



●質問注意 質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれと單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まさる方は匿名にても差支なしと云へとも事務所へは姓名御通知のこと●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

質問者　關西一會員

問　肺尖加答兒の初步はどんなものですか何卒くわしく御敎示被下ませ

答、肺尖と云ふのは丁度首の前の方の兩側の處で、指二本許り這入るだけの部分であッて、其の內部に肺の尖端がきてゐるのです、肺の其部分をば肺尖と申します、肺尖加答兒と云へば、肺の肺尖部に、加答兒の症候があるからです、加答兒のことまで說明するのは必要無いのでしやう、質問者は、ツマリ肺尖加答兒の初步である時には、全躰にドンナ模樣が出て來るかと云ふことを聞き度いのと察します、しかし、初步と云ふのは一寸わかりにくいが、輕い肺尖加答兒と解しやうか、又は今肺尖加答兒が始まッた處と見やうか、ドチラでも同じ事であらうと思ふ、普通は、肺病即ち肺結核の初まりは、肺尖部である、それで、肺尖加答兒は、肺病の初步と云ッてよからう、けれども、肺病も肺尖加答兒の頃に充分養生をすれば、隨分治癒するの例は少からぬから、餘り心配すべきもので無い、肺尖加答兒の三分の一はなほるとも申す程です、

處で、肺病の初めにはどんな風かと云ふに、醫者でないとわからないことはぬきにして、御話すれば、食慾が減じたり、消化が惡くなッたり坂など登ると呼吸切れがしたり、動悸を感じたり、肩が凝ッたり、また寢汗がしたり、瘦せたり、咳嗽が出たりする、

醫者に見て貰ッても、また、肺にこれぞと云ふことと
も無い、と云ッて、他の病氣ともつかぬ、そうする
内に熱が出てくる、血を略くこともあるこんな場合
には肺病の初まりに非ずやと醫者は注意する、熱が
長くとれぬは肺病と考えるのが至當である（他の病
氣で無い時に）右のやうな模樣があッて、肺に異狀
が見えねば、之を潜伏性の肺病と云ふのです、先づ
肺病の初歩てすな、しかし、肺尖加答兒と明かにき
まれば、肺尖に加答兒があるので、其時にも、右の
やうな模樣があることもあり、また、無いこともあ
る、前にも云ふ如く、單に肺尖加答兒であッても、
必ずしもそれが結核性のものとも限らず、また、隨
分、肺病にならずになほることがある、質問の、肺
尖加答兒の輕い所と云へば先づザット右のやうな模
樣てしやう、しかし、同じ肺尖の加答兒と云ふ診斷
ても、咳があり痰も出て、これを檢査して結核菌も
居ることが知れ、また、咯血もあると云ふ場合もあ
る、是は明かに肺結核である、夫故、肺尖加答兒で
も、輕重の差が著しいこともあるのです、詳しく云
へば六ケ敷なりますから、此位にとめましやう、

質問者　新潟一會員

問　私事冬分寒い時候には咽が惡くなッて少し痛
むやうに感じたり、くすぐッたいやうに感じた
り、少しの痰も出ます、何か、手療治はありま
せんか、御教示を乞ふ

答　熱の有無に注意し、熱あれば醫者にかゝること
緊要なり、唯咽の惡いのみなれば

重炭酸曹達	一匁
燒き鹽（食鹽）	一匁
清水	二合

の割に溶かし一日數回以上含嗽すべし、なほ咽の痛
む時、くすぐッたい時には、清潔な手拭に湯を浸し
て程よく絞り首に卷も付け、其上から乾きたる手拭
にて卷き置くべし、心地よきものなり、また右の含
嗽料にて一日二回位吸入するを可とす

質問者　東京一會員

問　老人が寒き時外出に襟巻を用ふるは衛生上害なきや

答　室内にて襟巻をするは不可なり首の皮膚が弱くなるこれは、老人も小兒も、弱い人も、皆同一なり、しかし、寒い時分に、弱い老人が外出するには襟巻を用えて差支無かるべし、車上などにて烈しく寒たい風に當る時には襟巻は却而效あるべし、小兒及び弱い人にも可ならん、しかし可成襟巻は用えぬやう平素から注意すべし、

質問者　芝　一　會　員

問　私事姙娠八ケ月に候が出産後乳のませ方は婦人衛生誌第百六十六號にて承知いたし候へども或醫者の説には出産後三日間はしづかにあをむけ様に臥せとの事に候がさすれば乳をのます時不便に候が此れは實さい如何にすればよろしきや何分始めての事ゆへ委しく御教示下され度御願申上候

答　出産後三日間はしづかにあをむけに臥せと云ふのは其御醫者様丈けの御説でしやう勿論しづかに臥かせてをくのが必要ですが、乳をのませる間位横にされたからと申して大した差障はござりませぬ

質問者　群馬縣　梅　澤　某

問　私知人當年未だ二十歳の少年に候か如何なる故にや書物など讀て聞かされしことなど忘れ易く候に付醫學上暗記力を強むる方法有之候や又よき養生法藥品にても有之候へば何卒御教示被下度候

答　醫學上暗記力を強める方法など〻申すものはまあないと云ふた方が至當でしやう宜き藥品もないのは古來馬鹿に付ける藥がないと同斷でしやう只腦の病ひのある人は記臆力が乏しくなり物に倦き易く根氣がなくなり例へば本を讀んでも少しも頭の中に這入らず字など見て居ッても其字が一々わからなくなるとか夜は十分に眠れず晝の方却ッて眠くなッたり又は動悸がしたり食事の後に腹がつッ張ッたり運動すれば疲勞すると云ふ様な人は通例腦病患者とし

て居ります脳の病氣は中々なほりにくいものですから東京帝國大學の三浦博士にても診察して御貰らいになるのがよいと思ひます

質問者 岐阜 會員 某

問 私の小兒來月にて滿一ヶ年に相當致し候が何故か折々舌に黑き部分を生じ候是れは胃病の由聞及候に付精々運動致させ注意致し居候別に身分惡しき樣子は少しも無之平常と變り不申候母乳のみにては不足に付二時間半毎に消毒牛乳五勺 沸騰せし湯等分に入れ飲用させ居り夜分は母乳にて養ひ居候斯く胃病の折いかに養育致し候て宜敷や又胃病の原因等に就き此段御尋ね申上候

答 舌に折々黑き部分を生じ居る丈にては胃病か何かとても判りませぬが氣分にも樣子にもかわりがなければたいした胃病でもないのでしよう

滿一ヶ年近くならばもう母乳のみでは不足なのは其子供が健康ならばあたりまへの事でござります牛乳を時々消毒して飲ませるのもいゝが其外に「おもゆ」を御のませなさい

「おもゆ」の用ゐ方を念の爲め御敎へ申しましやうか初めはうまい「おもゆ」から初じめて一日の中一度飲ませて見るそれで工合がよかッたら度數も多くしまたこいのも與へる樣になさいしまいにはやわらかい「おかゆ」もよい勿論砂糖を少しは混ぜていゝのです其他「くず湯」だのかるやきをやつてもよい只あまりにたんとやつてはいけぬ胃病の原因は一樣に申されませぬ消毒牛乳とても沸騰させてのませるが安全です沸騰の湯てうすめるごときは完全なものてありませぬ

質問者 八王子 地方 會員

問 胃腸を健全にするには如何なる注意が必要に候や

答 胃腸を丈夫にする爲めには先づ咀嚼即ち食物をよく嚙みて消化し易くすることが第一番に大切なことです往々よく食物を嚙まずに早く食物を嚥み下さ

ん爲めに御茶漬にしたり汁などをかける癖は甚だよろしくない又イクラ滋養物でも熱い飯に生鷄卵をカキ混ぜて食べるのは極めて惡るい丁度米に着物を着せて食べると同じことで消化が非常に惡くなります殊に胃膓を保護するには食事をなす時間は可成長くし大概一椀に十分位三椀なれば三十分位かけて食する樣にすることと尤も緊要なりかくするときは胃に樂をさする譯で胃を健康にする一番の秘法と申してもよいのです親が子供にサッサと食べておしまいなどゝ云ふのは間違いです又食物は大抵五時間で空虚になりますから朝は可成七時に食し晝は十二時夕は六時又は七時に食事をすることが尤も適當です其他暴飲暴食精神の感動は胃病を起す元になりますから是等は勸めて避けらるゝが必要です尚第二の御質問御尊父の御病氣は尙よき醫者の診察を受けられて安心さるゝがよろしいと思ひます胃病に關する病氣はいろ／＼ありますから…………轉地療養地も其節御問ひ合せありたし

問　　質問者　八王子　通常會員

小兒の腦膜炎を未發に防ぐ法有之候や又病前の徵候、原因、及重病の腦膜炎は生命覺束なく候や豫後の結果等御敎示願上候

答　小兒の腦膜炎を未發に防ぐ方法はありません病前の徵候とても餘程分り惡いのですがよく小兒が乳を度々吐いたりして胃膓を害する樣の場合には充分注意せらるゝが必要です原因は結核性より來ることもあり又然らざるもあり重病の腦膜炎に罹りたるときは御問ひの如く生命覺束なく萬一全快するも智識乏しく往々白痴に類するものあり

問　　質問者　信濃　一會員

一、本年二十二才の女子齒列いと醜く候へども矯正いたす事出來候や又右樣の事致し候ともぜんたいに害を蒙るなどいふ事は御座なきや又矯正の際は非常に痛み候か御伺申上候

二、過日御發行雜誌に齒の衛生に付久保田ドクトル御話中絹糸にて掃除いたすと云ふ事御坐候

か左様な事を致しては歯の間にすきを生ずるならんと存じ候がいかゞのものにや伺上候

三、歯に黒きものが附着いたし居候が何にゝてみがけばとれ候や御伺申上候

答　右問ひに對し久保田ドクトルの答は左の如し

一、歯列の矯正は可成年少の時代をよろしとすれども御質問の如く二十二歳位ひにても歯列の矯正は出來得るなり只年齢の少しく長したる爲め時日を要するのみ又其手術の際に疼痛することなし又歯列の矯正は身躰に害なく反て益ありと知らるべし

二、絹糸にて歯の間を掃除するも間隙を生ずる程の患ひは少からん若しあるとあるも齲歯を生ずるより宜しきなり

三、歯面の黒色の汚染あるときは歯科醫に就て治療を乞はるべし記者曰く酸類に遭へば直ぐにとれますが矢鱈なことをなして琺瑯質を害してはいけませぬから素人療法は申し上ません

質問者　東京　梅　子

問　過日ニキビ療法につき御示下され候處方（硫黄華六、カンフル一亞列比亞護謨二、石灰水一〇〇）により早速その間よりこゝろみ候處其翌日に相成今迄よりも一層ひどく（頭の黒きアブラカスのごときもの）發し其ために顔一面うす黒く相なりなほ今日まで治せずあまり見にくゝ候まゝ指にておし出しなどいたし候へどもなか〳〵とりきれず困り居り候いかゞいたさばよろしきや猶此まゝ用ひ居れば全治いたし候ものにや伺上候

答　にきびは脂肪の滿ちたる處に塵埃などのかゝりて起ること多ければ常に顔をよく洗はるゝが必要にて是れは御年若かの所謂血氣盛んの人に限ると申してもよいもので二十歳以上よりは段々に癒るものですが年若の時はナカ〳〵なほりにくいものです先頃記載致しました處法書は上澄の液を塗り夜は沈澱物を用ふべし之を轉倒せざるよう注意せらるべし又療治中は白粉は用ゐてはなりませぬ白粉の氣がありま

すと黒くなりますす白粉氣なしに黒くなるのは差支ありませぬ先々月の雑誌通り御施行あれば効能のある筈です此療法は皮膚病專門家治方でありますから安心されてよろしいのです



研究欄（會員の寄送を望む）

●魚類のカレー　T. y.

魚類は鱸、鯛、鰈、鯒若しくは之に似よりの者一二尾を得て常の如く拵へ皮をむきて其上肉のみを手際よく小片に切り置き先づスープを作らんがために其骨を程よく切りて一合五勺の水と共に鍋に入れ少計の食鹽を和して凡そ十二三分間煮出し他の鍋に珠葱一個（日本葱なれば（二本）と林檎一個を細かに刻みて投じ之を大匙二杯の牛酪にて煎付け更に小匙一杯のカレー粉と三勺五分の米の粉（又はうどんの粉）等を加へ四五分間文火にてかき廻しながら煮たる後煎汁をこして其鍋の中に注ぎ葱やはらかになり混和ものどろ／＼になるまで徐かに煮て魚の切り肉を投じ文火にて更らに煮ること十分乃至十五分間を費すべし而して調理更に成らんとする時に大匙一杯のクリーム及少許のレモン汁を和し肉を崩さぬ様に先づ魚を皿の中央に取り其上にカレーを注ぎ肉の邊に飯を盛りて膳に上すべし

但しクリームとレモンは場合に依りて之を加へざること又妨げなし

日本橋　田村き代子

●パンケーキ（洋菓子）

メリケン粉百目塩茶匕に半分バタ茶匕に一杯玉子黄味一ツ牛乳一合を少々づゝ入れ能く／＼泡立てたる白味をそろ／＼と交ぜフライパンにヘット又はラードを入れて充分鍋をあたゝめ（油は少なきをよしとす）其中に前の品物を大匕に三四杯位入れてオムレ

ツの如く鍋一杯にひろげ下のやけたる時にかへし敷又上をやき兩面共も狐色になりたる時に皿に取る後「ジャム」又はザラメ砂糖をかけて出す

大家談片

●痲病の恐るべきこと

多くの傳染病中でもコレラペストと云へは其の病名を聞いてさへ人の驚き豫防をするが痲病程こわいものはないとは某博士の話して此病ひは西洋にも多いか日本にも甚だ多い、此病の恐ろしいのは一身の病ひは其毒を妻女に及ぼし子に及ぼし其激烈なるものは一ヶ月を出てすして腹膜炎などを發して死亡するものもあり又た不妊症となるものもあつて婦人病の最大多數は其原因は痲病で妙齢の處女か結婚後一年もたゝぬに子宮病などを起し容貌は枯れ衰ふるに至るも又是れに原因するので婦女子の癡と云ふのは矢張痲病から來るので重病になりては肺病の末期の容態で果てるものが多い又痲病より來る盲目は非常に多いサレバ同病の世の中を毒することは實に恐ろしいものであるから世人の衛生思想を喚起して品行を謹むに至らざれば此患ひは免れぬものとぞ

●感冒のこと　此頃は大分感冒に罹る人が多いですが日本の家は其構造が麁末に出來て居る爲め室内と戸外と溫度に大差がないようですから此等の習慣はよく外氣に堪へることが出來ますが西洋風の家では寒暖の差が大變違いますから換氣法に注意せねは矢張り風を引く日本の家でも炬燵をしたりムヤミに重ね着するはよくない蒲柳の人だと外出すれは直ぐに風を引くと云ふことになるなんても常に外氣に堪へられる様な習慣を付けるのが一番大切ですソレて又平素の習慣を改めるのはよくない假令へば戸外に出つるに帽子を被ぶッて歩行いたものが被らなかッたり足袋、靴、手袋、をしたものが偶にしなかッたりす

れば風引の元で襟巻は寧ろはしめからせぬがよいツレて女には男に比して皮膚が薄弱ですから風を引き易い西洋では舞踏などをした跡で汗をかいた處を歸路の寒い風に曝らされて風を引くが多い日本婦人の用ゐらるゝ御高祖頭巾は外出には女子に奬勵すべきものであるが着物の重ね着はよくない可成薄着にならし毎朝冷水摩擦するなどは大變よろしい酒の如きも一時は非常に熱するがあとで反動が來て非常に寒くなり宴會なども歸路によく風を引くは寒暖の激變が來るからですサレバ常に寒暖の差の激しき場合には先づ暖室を出でゝ一時休憩の後外出する樣に心懸けらるゝ尤も緊要なりと知らるべし

中外彙報

●流行性腦脊髓膜炎（前號續）

腦脊髓膜炎菌が近道を撰びて直接に腦腔に侵入したる場合なるも亦遠路を迂回して腦内に達することあり即ち本菌は先づ咽頭の扁桃腺に寄生し次で一度び血液に這入りたる後血流に隨ひ腦内に漂流し終に爰に寄生增殖して腦脊髓膜炎を發する至るされば其流行性腦脊髓膜炎菌が如何にして鼻腔及咽頭來るか即ち如何にして甲より乙に傳染するかと問ふに先づ其病源地の何たるを知らさるべからず即ち本病の病原菌は患者の腦脊髓液中に常に混在するものなれとも該液は堅牢なる骨層の内部に貯留するものにして敢て體外に排出するものにあらず從て該液は傳染上大なる意味を有するにあらず然るに本菌は既に述ふる如く先づ鼻咽頭に巢窟を構へ次に深部に侵入するものなれば却つて其鼻及び咽頭粘液が他の健康者に傳染する處の病源地なるなり然らば其鼻咽頭粘液なる病源地より如何にして健康者に傳はるや是第二に來る當然の問題なりと（未完）

▲色鉛筆の分拆　過般來色鉛筆には砒石を含有せりとの風說あるを以て警視廳は先づ坊間コッピーと稱する紫色及赤色の鉛筆を分拆し其心を細碎してフレセンニース及びパポ氏の方法に從ひ有機物を崩壞

し不溶解物は濾別して洗滌し洗液は濾液と合してマルシュ氏裝置により砒素を試驗せしに兩種とも砒素を有せざること判明したり次に其心の本質につき試驗したるところ赤色の水溶液は美赤色にしてタンニン試藥によるも沈澱せず亞鉛及鹽酸を以て還元したるに空氣中に於て原色を呈し又其水溶液は酸類によりてエルテル可溶性の赤褐色を生じたり又紫色のものは水溶液は美なる紫色を有しタンニン試藥によりて紫色の沈澱を生じ亞鉛及鹽酸を以て還元したるものは空氣中に於て紫色を復現し其水溶液に微量の酸によりて藍色を呈し過量の酸によりて黄褐色となり之に多量の水を加ふれば再び紫色を現じ二種とも白陶土及び木蠟を配伍して賦形せるを認めたり依て眼球に對する害毒の有無に就き説をなしたるものと雖も學者間の主張區々にして未だ定着するところなければ無害なりと明言し難きも亦有害なりとも斷じ難しとの事なり

▲清潔法の廳令　追々流行病發生の季節となるより警視廳にては左の如き廳令を發布されたり

第一條　清潔方法施行の區域及其日割は官吏又は當該吏員の指示に從ふべし

第二條　清潔方法の施行程度は左の各號に依るべし

一　家の内外は清潔に掃除すること

二　什器及疊等は可成日光に曝らすこと

三　井戸側井戸流しの破損せるものは可成修繕を加ふること

四　便所芥溜下水及吸込淳を掃除し其損破せるものは修繕を加ふること

五　塵芥は一定の場所に搬出すること

▲肺結核患者豫防法に就て　近來肺結核に罹るもの夥しく去る二十九年以來其死亡數漸次増加の度を高め三十五年度には赤坂區内のみにて百二十一人其他結核性患者四十七人にて之を一般死亡總數に比較するに百人に就き二十一人四分强を示したりまた以て東京市内全般に於ける同患者の非常に増加し來れるを知るに足るべきを以て東京市立衛生會に於ても之が豫防法の研究中なれども今以て決定に至らざるを齒痒しとなし赤坂醫會及び同區衛生掛等は一昨日來有志相會して協議の末左の項目を定め該病患者に

對して實行する事となせりといふ

（一）肺病患者を診斷したる醫師が他の患者に接するときは適當の消毒を行ひ又附添人等にも之が實行をなさしむる事

（二）肺病者の咯痰は消毒後樹又は石油罐に入れて燒却し無害の地に埋むる事但し自宅に於て燒却することの出來ざる場所は代々木の火葬場に送りて燒却する事

（三）該患者死亡したるときは區衛生掛に於て患家の室內、衣服、寢具器物等の消毒を行ふ事

（四）患家に於て室內、衣服、寢具等にフォルマリン瓦斯消毒若くは物品に蒸汽消毒を行はんとするときは區衛生掛に於て東京市消毒所又は私設瓦斯消毒會社に照會し又は送附人夫周旋の勞を取るべきに付き豫め此事を主治醫より注意する事

（五）患家に於てフォルマリン瓦斯消毒を行はんとするときは區役所に於て消毒械を貸與使用せしむる事

（六）消毒其他に關する費用は一切自辨の事

▲ペスト患者と職業　昨年九月以來十月廿日に至るまでに橫濱に發生したるペスト患者の總數は四十三人其職業別を記るせば、人足四人、其子供二人、船乘業二人、日雇稼二人、其妻一人、雇人二人、湯屋の女二人、漁師　妻及び女各一人、雇人口入業の女及び其子守各一人、理髮職の長男長女及び二女各一人鐵道驛夫及び其長男長女女各一人、無職業、豆腐屋雇人、紙漉業、車夫の子、釣舟業の子、同居人、塗物職、雜穀商の子、足袋縫業、通信書記の女、工夫の妻、牛乳搾取業、鳶職の孫、青物商の女、工夫鋳掛職、莨商、縫箔職等各一人なりしと。

▲有害なる食器　日用の食器中往々其材質の有毒より害を及ぼす事尠からざるか這回警視廳にて是等食器を分析の結果鉛の溶出若しくは鉛含有の爲め健康に害ありと認められ其發賣を禁止されたる上告發されしもの多しと云ふ注意さるべきことなり

▲臺灣ペストの減少　臺灣に於けるペスト患者の數は年を追て減少しつゝある由なるが昨年十一月に於ける同地ペスト患者累計は二千百三十五五人死亡累計千六百九十一人にして之を本年一月よりの累計患者八百六十二人死亡累計六百九十七人に比すれば患者に千二百七十二人死亡に於て九百九十四人の減少なりし譯にて實に六割餘の減少なりと云ふ

▲醫術開業試驗の廢止に就て　醫術開業試驗廢止せらるべしとの說あるより醫學生間に一大恐慌を來

したるが文部當局者の語る處に依れば同試驗の早晩廢止せらるべきは事實なるも愈々廢止と決せば私立醫學專門學校卒業生に開業免許を與ふる方法は別に定めらるべく隨て同學生等の爲に何等の不便をも感ぜしめざる考へなりと云へり

▲日本產婆學校　榊醫學博士が千家男床次、鈴木兩法學士の贊成を得て麴町山元町二丁目十五番地に設立せんとする日本產婆學校は去る廿八日其の認可を得たるを以て愈々來年一月より開校することゝなりしが同校は學說科實地科の二部に分ち隨意入學を許し附屬看護婦講習所をも設けられたり講師には鈴木醫學士其他專門家を聘する筈なりと

▲官立齒科學校　文部省にては目下歐米漫遊中なる三島醫學博士に巡回各國に於ける齒科學校の組織及ば程度の調査を命じたれば歸朝の上は是等の調査報告により官立齒科學校を設立せんとするものなりと而して右は第二十議會に該豫算を提出する筈なりといふ

▲長崎のコレラ全滅　衞生局の調査に依れば去る十月二十一日以後長崎縣下に發生せし眞性虎列拉は累計眞性百四十九名疑似患者九名なりしが本月十一日以後一名の新患者も發生せず從つて全滅せしものと認められたる由なり

▲慈惠醫院の給費生　東京慈惠醫院にては看護婦生徒の貸費を給費生となし來年一月十五日迄に出願する者は試驗の上二十名限り採用する由

▲催眠術の取締　近來東京を始め全國地方に於て催眠術を傳授し或は催眠術を應用し不治の病症を治癒せしむることを得と吹聽する者續出せるが爲め其筋に於ても各地方廳に通牒し其實況取調中なりと

▲三所の出品　傳染病研究所、血清藥院、痘苗製造所等より聖路易博覽會に藥品寫眞圖其他標本數種類を出品する筈にて過般來之が準備中なりと



大日本婦人衞生會記事

●十二月本會納會

本月五日第一土曜日午後正一時半より本會本年の納會として例により麴町區虎の門内なる東京女學館講堂に於て開會し醫學博士三宅秀君には前回の續きなる藥の注意に關して演說せられて一と先づ結了を告げられ次に醫學士山田弘倫君には毛髮病の話と云へる演題にて其症狀原因豫防法より延いて毛髮を保護する油の事に說き及ばし鬢附に代用すへき油の製法二三を示され午後四時頃散會せしが當日役員には鍋島會長、濱尾副會長、鳩山、高木、三浦、田村の諸氏にして役員會員も例月に比して少數なりき

●**本會新年會**　來一月九日第二土曜日午後正一時半より(晴雨共)麴町區虎の門内東京女學館講堂に於て新年相互の禮を兼ね例會を開き講話を減じ餘興催しの豫定にて例の會場大廣間は暖爐の備へ付け不充分なれば二階なる暖爐の完備せる一室に於て開會すべし御親族知友御誘引にて御來會あらん事今より希望いたし候

●新潟支會報告

慈善演技會

去十一月十九日新潟縣赤十字社支部總會を機とし慈善演技會を新潟高等女學校講堂に於て擧行す非常の盛會にして定刻に先ち既に滿場立錐の地なく參會者千貳百名の多きに至れり當日休憩室に於ける慈善販賣品も一物も殘さゞる有樣にて未曾有の好結果を奏せり當日執行の曲目及收支決算左の如し

曲目	出演者
一、箏曲　夕そら(京うた)	小柴令孃 鈴木令孃
二、遊戲　獨逸式行進法	工藤女學校生徒有志者
三、二部合唱(サムデイ、アイル、ルツンダーバツク、アゲイン)	カテルス君 仝　令夫人
四、唱歌　甲、風烈しくとも　乙、紅葉狩	工藤女學校生徒有志者

五、箏曲、松風　香川令夫人　鏡令夫人
六、唱歌獨唱　甲、母なき吾屋　乙、セントポーロ中の一節　青木　見君
七、唱歌　甲、菅公　乙、川中島　高等女學校生徒有志者
八、ホイスリング（メツドレー）　カルテス君
九、ヴアイオリン獨奏　甲、戀愛の歌　乙、春の歌　山井景藏君
十、唱歌合唱、讃岐院　高等女學校生徒有志者
十一、四部合唱（ハレルヤ、フオザ、クロース）　ニウエル君　カルテス君　ニウエル夫人　ウオード令孃
十二、唱歌　鵯が岡　工藝學校生徒有志者
十三、ピヤノ獨彈（レザメント）　ウオード令孃
十四、唱歌　甲、望鄕の歌　乙、破邪の曲　高等女學校生徒有志者
十五、遊戯　日本の婦人　工藝學校生徒有志者
十六、ピヤノ聯彈（メレダレー　ギヤロツプ）　ニウエル令孃　ウオード令孃
十七、餘興　活人畫　小楠公　征村令孃　岸本令孃

●慈善演技會收支決算

一金參百七拾參圓七拾四錢壹厘　總收入

内譯

金拾四圓九拾錢　特別寄附
金參百貳拾七圓七拾錢　通劵收入
金參拾壹圓拾四錢壹厘　慈善販賣收入

一金壹百六圓七拾錢四厘　總支出

差引殘金貳百六拾七圓參錢七厘　總實收入

内

金拾圓　新潟育兒院へ寄附
金五圓　十日町孤兒院へ寄附

以上

●山形支會報告

十月例會　過にし十月十日午後一時より山形女子師範學校内に於て例會を開き中原、友田、佐々木、吉村諸氏出席せられ左の講話ありて四時閉會せりといふ

救急療法（前回續）　吉村講師
人工呼吸法　中原講師
戰時衞生隊に就て　佐々木講師
小兒玩具の危險に就て　友田講師

十一月例會　去る十四日第二土曜日午後二時より當支會例會を女子師範學校内に開く岩本副會長を初め會員傍聽者約八十餘名友田里學士、佐々木講師津田女學校長、吉村講師の諸氏臨席せられ左の有益なる講話ありて後嘗て仝子會創立以來鋭意盡力せられたる沖野評議員には今回東京へ轉任せらるゝに付送別紀念の爲め會員有志者一同撮影の後四時半散會せりといふ

水の衞生に就て　友田醫學士

公衆と衞生に就て　佐々木講師
男と女　津田女學校長



●高崎支會報告

十一月例會

十一月八日(日曜日)午後一時より例會を同市宮元町高等小學校内に開く昨夜より降り續きし雨は當日午前十一時過に歇み密雲は猶天空を被ひ道路は泥濘なりしにも拘はらず星野副會長、三橋、横井、齋藤、土谷の四幹事松本、粟野、關、馬渡、財津、林の六評議員(出席順)横井、秋田の兩特別賛成員を始め多數會員賛成員の參集あり暫く雜談の後星野副會長は先づ開會を告げ且入會者を披露す次で陸軍藥劑官水谷梅次郎君登壇し「家庭衞生の二三」と題し一家の安寧福祉は臺所より出づとの冒頭より話頭を開き飲食物容器、竈と薪、煮物方法、味噌醤油、石鹸、洗粉、齒磨粉、髪の油、皮膚液等に就き其良否鑑別より性質効用、使用法簡易製造法等を或は理化學的或は藥學的方面より生理衞生上に論及して丁寧懇切に講話せられたり

此日役員は井口前支會長へ贈呈の感謝狀草案及び紀念品を提出し滿場一致の同意を以て直に發送する事に決し正四時散會せりといふ

●寄附金

一金壹圓　醫師　須野菊太郎君

●茨城支會報告

十一月例會

十一月廿九日(日曜日)午前十時より好文亭に於て仝支會創立紀念會を左の順序により開きたり

一、開會　二、唱歌　君ヶ代　二回
三、裁縫の話　飯山まつ子
四、女子体育談　西久保書記官
五、喫茶及午餐

午後

一、看護法　波多野病院長
二、餘興　彈琴　秋谷かつ子　吉川　子
三、會務報告　四、唱歌　告別の歌
五、閉會

因に記す當十二月は好文亭内に美術研精會あり場所の差支もありし爲め臨時看護法の話に代へ美術に就きての演説を聞き頗る盛會なりしと



本會入會者

○小石川宮崎よし子紹介
●横濱市山の出町三ノ七十二　通常會員　永田友代子

○日本橋安達みつ子紹介
●京橋區築地三ノ十五　通常會員　木村れい子
●京橋區木挽町九ノ三十　通常會員　鹿島たき子

○本郷杉本りせ子紹介
●本郷區駒込病院内　通常會員　濱田千代子

○事務所へ申込
●相州小田原十字町天王横町　通常會員　村井たか子
●台灣台南醫院官舍　通常會員　川田あや子
●伊豫國新居濱村惣開乙百十二　通常會員　吉田香小枝子
●麻布區飯倉町六十五　通常會員　淺井梅子

○赤坂井口德子紹介
●赤坂區青山北町字原宿二百　通常會員　森君子

○熱海有川仙子紹介
●豆州熱海町　通常會員　白倉婦美枝子

○千葉縣加藤彌壽子紹介
●千葉縣長生郡茂原町高師　通常會員　宮崎松枝子

○信州常田薰君紹介
●長野縣下高井郡夜間瀨村甲夜間瀨尋常高等小學校内　贊成員　小池篤之助君

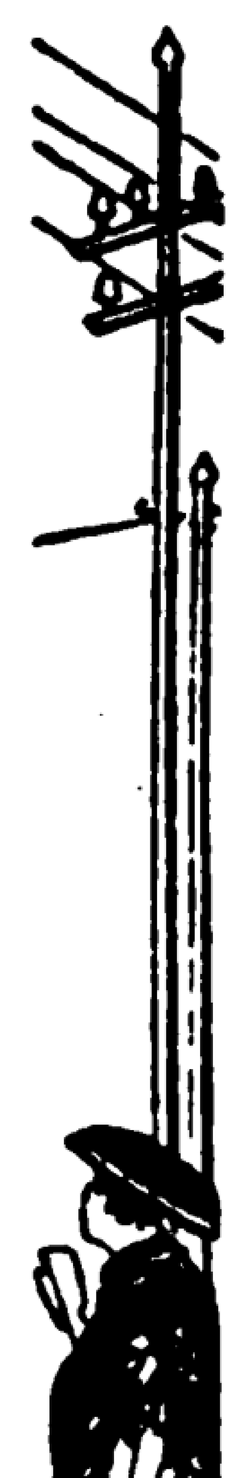
○芝福島つる子紹介
●麻布町内田山芳川氏方　通常會員　島清子

○本所宇數かつ子紹介
●赤坂區福吉町一ノ五號　通常會員　石田米子

○長野蜂谷せん子紹介
●長野縣下伊那郡松尾村七百三　通常會員　平澤げん子

◎新潟支會入會者

○幹事河上ふさ子紹介
●新潟市寄居町　通常會員　中野せき子



●轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

●牛込區市谷谷町十一番地へ　依田數陽子
●赤坂區丹後町五十八番地へ　蒲原和歌子
●芝區明舟町十九番地へ　內藤千代子
●日本橋區小傳馬町一丁目二番地へ　酒井はま子
●四谷區坂町七番地へ　野上きゑ子
●大坂南區天王寺茶臼山町三千七百二十二へ　池田讓子
●秋田市中龜之町へ　戸田多喜子
●小川區西原町二丁目十五番地へ　田中てる子
●神田區駿河台西紅梅町、和原氏方へ　山下春江子
●赤坂區青山北町廿八、川合氏方へ　益子てつ子
●神田區今川小路二丁目十五、津田氏方へ　佐村み喜子
●下野國足利町五丁目へ　近藤てい子
●群馬縣高崎高等女學校内へ　增濱琴子
●千葉縣佐倉町宮小路七十九番地へ　岩佐くに子
●鹿兒島縣鹿兒島郡西櫻島村武二九二へ　森田みつ子
●荏原郡入新井村字新井宿一五〇二へ　神足とも子
●麻布三軒町二十番地へ　松崎すぎ子
●本郷區西片町十、への五號　服部もと子

●牛込區中里町二十五番地へ　戸川操子
●牛込區榎町八十三番地へ　伊藤こう子
●麻布區市兵御町一ノ一へ　秋山梅子
●京橋區豐玉川岸二十九號へ　竹村つや子
●小石川區中富坂町十七番地へ　淺井ひで子
●日本橋區小傳馬町三丁目一番地へ　石久保美伊子
●牛込區築土八幡町十一番地へ　瀬川さわ子
●神田區小柳町十五番地へ　今井きく子
●群馬縣北甘樂郡富岡町へ　原澤四津子

交換寄贈雜誌（十一月分）

●日本赤十字
●統計集誌
●をんな
●教育實驗界
●通俗衛生
●藥學雜誌
●國家醫學會雜誌
●子人世界
●産科婦人科雜誌
●佛教文藝
●學校衛生
●中外藥報
●婦女新聞
●愛國婦人
●豐國新聞
●大日本婦人教育會雜誌
●藥石新報
●工手の母
●草藥新聞
●日本衛生週報
●防長醫事

京橋區南傳馬町一ノ七
京橋區山城町六
麴町區下二番町三十七
本郷區森川町一
大坂西區土佐堀通三ノ廿九
牛込區新川町二ノ八
本郷區富士見町一
大坂南區吉末橋通四の六
日本橋區濱町三ノ七楠田病院内
淺草區新谷町十
芝區南佐久間町二ノ十八
神田區小川町一
牛込衛東五軒區四十一
麴町區下二番町三十七
京都市下京四條通油小路四入
赤坂表二ノ十三
大坂西區江戸堀、通三ノ卅六
大坂北區西野田新家四の町
大坂南區心齋橋筋二ノ百七
甲府市代官町廿六

日本赤十字發行所
東京統計協會事務所
大日本女學會
育成會
大坂私立衛生會事務所
日本藥學會事勢所
國家醫學會雜誌發行所
浪華婦人會
産科婦人科學會事務所
佛教社
學校衛生研究會
中外藥報社
婦女新聞社
愛國婦人發行所
豐國新聞京都局
大日本婦人教育會
藥石新報社
工手の母新聞社
帥藥新聞社
日本衛生週報社

●家庭新聞
●兒童教育
●農産時報
●日本女學生
●工業雜誌
●日本婦人
●衛生報知
●京濱新實業新報
●東京藥事新報
●東京教育雜誌
●體育
●大日本私立衛生會雜誌
●婦人新報
●廣島衛生醫事月報
●越佐教育雜誌
●婦人と子とも
●山陽新報
●白梅
●新潟縣衛生雜誌
●割烹新聞
●藥事新報
●天然足會會報四册

山口縣吉敷郡山口町錢湯小路
熊本市新坪井町廿三
神田區末廣町十
府下豐多摩郡淀橋柏木百三
本郷區片町百三十三
京橋區尾張町一ノ一
府下豐多摩郡澁谷村字常磐松御料地内
神戸市相生町一ノ廿七
神田區北神保町八
京橋區桶町四
神田區一ツ橋通町廿一
麴町區飯田町二丁目
京橋區宗十郎町七
赤坂區榎坂町
廣島市猫屋町
新潟市寺裏通
本郷區女子高等師範學校内
岡山市榮町
神田錦町三ノ一
神田佐久間町四丁目
京橋桶町四
台町北

防長醫事社
家庭新聞社
兒童新聞社
農産商會
日本女學生會
工業雜誌社
帝國婦人協會
私立神戸市衛生會
京濱實業新報社
東京藥事新報社
東京教育雜誌發行所
日本體育會
大日本私立衛生會
婦人新報社
廣島衛生醫事月報社
越佐教育雜誌社
フレーベル會
山陽新信社
大日本看護婦人矯風會
新潟縣衛生會
家庭割烹實習會
東京藥事新報社
天然足會



私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善發見及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人の[illegible]らざるべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相次で起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは既に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如く[illegible]ことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人相ひ謀り一會を設け名付けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講[illegible]を聽き互に相研究し尚之を篤記して冊子を[illegible]し會員に分ち廣く同胞の爲めに[illegible]あらんとす茲に本會[illegible]て廣く江湖の諸大姉に告げ其賛成を仰ぐことゝなり[illegible]

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

(明治廿二年十一月改正)

●第一章 目的

第一條 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を論究し衛生上の智識を[illegible]進するにあり

●第二章 名稱

[illegible]

第十六條 集會は例會總會及評議員會の[illegible]

[illegible]

會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧[illegible]

[illegible]

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券込一割増）第卅三條 會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし第卅四條 會員中若し本會の體害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし第卅五條 本規則は會長の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所 東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

總裁 東伏見宮依仁親王妃 周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
仝 羽田三緒子
仝 岡田總子
仝 高木かう子
仝 山本多德子
仝 松平芳子
仝 三浦牧子

評議員 伊集院しげ子
仝 石川貞子
仝 濱田捨子
仝 仁禮壽賀子
仝 西升子
仝 穗積歌子
仝 緒方悅子
仝 岡山とし子
仝 男爵夫人 加藤鈴子
仝 片山龜子
仝 子爵夫人 田中いよ子
仝 丹波貞子
仝 高橋孝子
仝 田村きよ子
仝 相馬隆子
仝 男爵夫人 南部陞子
仝 中濱芳子
仝 伯爵夫人 松平光子
仝 子爵夫人 松平正子
仝 子爵夫人 松平久子
仝 木場小ゆり子
仝 岸遜子
仝 三宅藤子
仝 宮本樂子
仝 宮下吹子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎

本會特別贊成員

（●は本會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士 ●入澤達吉君
理學博士 ●飯島魁君
ドクトル ●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學士 ●伊東祐彦君
ドクトル ●飯盛挺造君
醫學博士 ●伊藤隼三君
理學博士 ●石川千代松君
赤十字社内科主任 ●岩井禎造君
醫學士 ●石原久君
貴族院議員 濱尾新君
醫學博士 ●濱田玄達君
法學博士 ●鳩山和夫君
東京 秋原網四郎君
醫學博士 ●芳賀榮二郎君
衛生局長 ●長谷川泰君
新潟 長谷川一詮君
小兒科 小原祖之君
醫學士 ●林春雄君
醫學士 ●佐藤達次郎君
醫學博士 ●緒方正規君

步兵少佐 ●堀内文次郎君
醫學博士 ●土肥慶三郎君
醫學博士 ●岡田和一郎君
醫學博士 ●大澤謙二君
醫學士 大西秀治君
醫學博士 ●大澤岳太郎君
一等藥劑官 ●恩田重信君
醫學士 若杉喜三郎君
男爵 ●加藤弘之君
ドクトル ●加藤照麿君
醫學士 ●賀古鶴所君
醫學博士 ●河本重次郎君
醫學博士 ●片山國嘉君
醫學士 川上雅重君
ドクトル ●金杉英五郎君
醫學士 ●笠原光興君
醫學博士 ●高橋順太郎君
ドクトル ●高山紀齋君
醫學博士 ●高木兼寛君
法學博士 高木豐三君
醫學士 ●田代義德君
新潟 田代亮助君
男爵 高崎正風君
醫學士 竹中成憲君
醫學士 ●高山排安君
新潟市病院長 高橋辰五郎君
藥學博士 ●丹波敬三君
醫學士 高橋貞碩君
藥學博士 ●田原良純君
醫學士 ●田村光顯君
醫學士 ●久保猪之吉君
醫學士 米山彥郎君
三等軍醫正 星野葆光君
醫學士 ●宮本叔君

一等軍醫 横井忠國君
大日本教育會長 辻新次君
理學博士 ●坪井正五郎君
醫學博士 ●長與稱吉君
男爵 南部彌男君
理學博士藥學博士 ●長井長義君
新潟 長井千郷君
醫學博士 ●中濱東一郎君
新潟 中村勇三郎君
醫學士 村松依三君
醫學博士 ●駿川宗雄君
醫學博士 ●栗木東明君
醫學士 ●山田鐵三君
醫學士 山田弘倫君
醫學士警視廳第三部長 ●山根正次君
岡山 山川春二君
醫學士 ●丸茂文良君
衛生試驗所技手 ●丸山辰四郎君
ドクトル ●松山陽太郎君
ドクトル ●小此木信六郎君
盲唖學校長 ●小西信八君
廣島 小泉[illegible]君
醫學士 ●古川榮君
東京 布施正顯君
衛生局長 ●後藤新平君
帝國大學教授 ●エ、ベルツ君
醫學士 ●甲野棐君
文部書記官 ●寺田勇吉君
子爵 秋元興朝君
前軍醫總監 ●足立寛君
ドクトル ●新井吉芳君
ドクトル 富士川游君
高崎醫會長 土谷金次君
産科婦人科 ●水原濟君

ドクトル ●久保田誠齋君
醫學博士 ●佐々木政吉君
醫學士 淺田決君
ドクトル ●朝倉文三君
ドクトル ●朝山淺六君
高崎 荻田聰太郎君
醫學博士 佐藤三吉君
醫學士 ●岡本郁二郎君
醫學士 ●佐藤恆久君
ドクトル 佐伯理一郎君
ドクトル ●榊順次郎君
醫學士 ●榊保三郎君
醫學士 櫻井恆次郎君
醫學士 ●北村〓造君
ドクトル ●北川乙二郎君
醫學士 ●木下正中君
醫學士 北島小太郎君
醫學博士 ●北里柴三郎君
醫學博士 ●三浦守治君
醫學博士 ●三浦謹之助君
小兒科專門 ●宮本仲君
理學博士 ●箕作佳吉君
醫學博士 ●三島通良君
醫學博士 ●三宅秀君
醫學士 ●三輪信太郎君
新潟 水野鉄君
伯爵 土方久元君
醫學士 ●島村俊一君
醫學博士 ●弘田長君
ドクトル ●須田卓樹君
●ミス、ヒユース
醫學士 ●藍川三男三君
醫學士 波多野[illegible]君
醫學博士 ●吳秀三君
八王子 和田[illegible]君

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治卅九年四月創立

事務所新潟市學校町二番町四十七
和田くに子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條 當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條 當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條 當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條 本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し 三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條 當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條 當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條 支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條 役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す 又幹事評議員は役員中より會長之を指名す 但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條 本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き 毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條 會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得 但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條 本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として 一箇月金五錢を出す者とす●第十三條 總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條 支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條 會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條 本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條 會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄居町五十番地

高崎支會

商標

一名改良あらひ粉（田中隆士案）

艶肌!!!

色を白くする衛生的洗料

しやぼん。ぬか。あらひ粉兼用
定價箱入拾錢　袋入五錢と二錢

●此あらひ粉は衛生上から調理してこしらへたもので、**硼酸其他の藥**を澤山入れてありますし、又よき品物なつかつてありますから、色も白くなり、キメもこまかにあれる憂ひがありませんから、普通の品とは違います！
▲用法　此まゝぬか袋に入れて御つかいになれば一番よいのですが普通のあらい粉の樣にしてもよくつかへ分量澤山御德用！

本舗　東京牛込通寺町三十八　**松壽堂**

特約店　京橋區銀座二丁目　無鉛毒おしろい本舗　**胡蝶園**

仝　上州高崎市田町　小間物問屋　**小菅商店**（電話新橋二六四〇）

●府下販賣店

●
- 牛込神樂町　淺井商店
- 仝箪笥町三十一　酒井商店
- 仝白銀町十三　吉田屋
- 仝鶴巻町十二　鈴木商店
- 仝原町三ノ七　一心堂
- 仝市谷富久町　山中商店
- 仝袋町三十八　船越商店
- 仝早稻田町三十七　利根川商店
- 仝東榎町四十三　山口屋
- 仝新小川町一ノ一　萬屋
- 仝町二ノ四　沖盛堂

●
- 仝水道町廿一　山木商店
- 四谷新宿三丁目　池田屋
- 仝四信濃町　吉田兼次郎
- 仝東信濃町　加賀屋
- 仝大横町　大黒屋
- 仝麹町十二丁目　田邊商店
- 赤坂一ツ木一五　松下商店
- 仝田町三ノ一〇　加藤盛店
- 仝田町六十ノ一　むさしや
- 青山北町三ノ二　山菊屋
- 赤坂福吉町一　澤田屋

●
- 仝田町四ノ四　尾張屋
- 仝一ツ木十八　山口屋
- 仝田町五ノ七　川上商店
- 芝烏森四　米廣商屋
- 仝三田二ノ十三　町井商店
- 仝三田一ノ八　花びし
- 仝烏森四　少杉商店
- 仝柄町　布袋屋
- 仝今入町　福窯
- 仝愛宕下一ノ二　かけ屋
- 仝梅川町二　山木商店
- 仝琴平町十二　スキンブロックダイ本舗　丸嘉店

●
- 仝櫻川町八　梅田屋
- 麻布材木町一ノ四　へ桝田晴進堂
- 仝飯倉五ノ二三　萬屋
- 仝飯倉三丁目　白ぼたん
- 仝六本木町　朝日屋
- 仝今井町二十三　花びしや
- 仝市兵衛町二　榮屋
- 仝松下町三十四　榮錦屋

●
- 京橋築地一丁目　弘文堂
- 仝築町一ノ八　虎屋
- 仝木挽町三ノ十四　若よし
- 京橋今春一ノ八　藤井商店
- 代南傳馬一ノ八　堺屋藥店
- 仝木挽町三ノ十八　逵菜屋
- 日本橋濵花二七　明治屋

●
- 住吉町十五仝　ふじの雲本舗
- 松木廣屋
- 仝藥研堀四二　桑山商店
- 仝濱町二ノ十二　近江屋
- 麹町飯田町四丁目　坂回天堂
- 仝上六番丁四〇　矢来堂
- 仝三丁目五　藤田商店
- 仝飯田町六丁目　伊藤商店
- 麹町十丁目四　珍々堂
- 仝飯田町二ノ四六　長岡商店
- 仝飯田町二ノ三　盛香堂

●
- 神田三崎町三　英盛堂
- 仝美土代町三丁目　中澤商店
- 仝北神保町六　英盛堂
- 仝五軒町十九　英盛堂
- 仝淡路町一　錦盛堂
- 仝松下町四　渡邊商店
- 仝江川町十二　勝商店
- 仝表神保町二　山木商店
- 仝松田町六　三柏商店
- 仝三崎町一丁目　久保商店
- 仝三崎町三ノ一　山田屋
- 仝猿樂二十二　山原商店
- 仝裏神保町一　中村商店
- 仝平永町三　小山商店
- 仝富山町十四　山崎屋

●
- 本鄕切通坂町　ふじや
- 仝春木町一ノ三十　萬屋
- 仝森川町三　いてうや
- 仝森川町二七　旭屋
- 仝元町二ノ六　萬屋
- 仝駒込四片町四七　坂尾商店

●
- 小石川竹早町四　仁壽堂
- 仝金富町五三　尾張屋

●
- 下谷徒町二ノ四　增田商店
- 仝池端仲町　高島商店
- 仝南稻荷町廿九　つたや

●
- 淺草小島町　松木商店
- 仝七十八　近藤商店
- 仝三間町四　藤谷商店
- 仝公園花やしき前　藤谷支店
- 仝千束町二　蓬屋

●
- 本所相生町五丁目　武藏屋
- 仝相生五丁目　市川商店
- 仝横網町二ノ六　上野屋
- 仝北二葉小町四　開盛堂

●
- 深川富士見町一　松竹樓
- 仝万年町二ノ三　龜甲
- 仝東森下町八　広島屋

（未完）

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章

第三號　メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　七十錢（黑塗箱入　送費九錢）　六十錢（桐箱入　送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又た價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數に應じ本會雜誌進呈の事

本誌一部定價貳拾錢

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　渡邊智